



石巻市

# 文化財だより(第12号)

## も く じ

石巻市指定文化財について.....	1
石巻市教育委員会社会教育課	
昭和56年度文化財調査報告.....	3
佐藤 雄 一	
石巻市内におけるモクゲンジの分布状況調査報告...11	
佐々木 豊	
越田台遺跡発掘調査報告(1).....	17
木村 敏 郎	
真野日向・日影民俗資料調査報告.....	22
鈴木 東 行	
五松山洞窟遺跡発掘調査の概要.....	29
三宅 宗 議	



# 石巻市指定文化財について

石巻市教育委員会社会教育課

石巻市教育委員会では、昭和五十七年十二月十五日付で、あらたに有形文化財（彫刻）一件の文化財を指定しました。これによって、石巻市指定文化財は、総数十一件となりました。

◆故高橋英吉作木彫「漁夫像」

「漁夫像」は、海を主題とする三部作のうち、最後の作品で、昭和十五年に制作された。

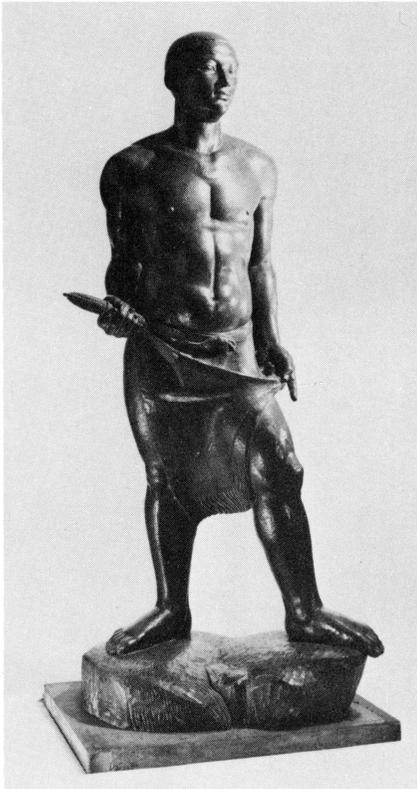
高橋英吉氏は、明治四十四年四月石巻町湊本町に生まれ、昭和五年旧制石巻中学校を卒業後、東京美術学校（現在の東

京芸術大学）に入学。在学中、帝展に「少女像」を初出品し入選している。のち、海を主題とする三部作に取り組み、「黒潮

閑日」（昭和十三年文展入選）、「潮音」（昭和十四年文展特選）「漁夫像」（昭和十五年文展無鑑査）を発表し、戦時色濃い中

真の創作活動を続け、芸術家としての名声は高まった。しかし、昭和十七年、南方派遣軍に応召。同年十一月二日、三十一歳の若さでガダルカナル島に散華した。

「漁夫像」は、漁具を右手にしっかりと握った逞しい青年漁夫の躍動する姿を表現した作品である。



(写真) 宇治 惇

## 石巻市所在指定文化財一覧

### ◆国指定文化財

名 称	員 数	指定年月日	所 在 地	所 有 者	時 代
重要文化財 岩 版	1	昭36. 2. 1	石巻市 住吉町一丁目 8-29	毛利 伸	縄 文
史 跡 沼 津 貝 塚	1	昭47. 10. 21	沼津字出外		縄 文 ~ 弥生

### ◆県指定文化財

名 称	員 数	指定年月日	所 在 地	所 有 者	時 代
牡 鹿 法 印 神 楽	1	昭46. 3. 2	湊字牧山 1-1	代表 桜谷 守雄	
仁 斗 田 貝 塚	1	昭50. 4. 30	大字田代字仁斗田		縄 文

## ◆市指定文化財

名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所 有 者	時 代
多 福 院 板 碑 群	88	昭50.6.1	吉野町一丁目1-9	三輪宗穎	中 世
平塚ツナ家文書	739	(第一次) 昭51.6.1	大字田代字仁斗田50	平塚ツナ	近 世
		(第二次) 昭53.4.1	”	”	
鳥屋神社奉納絵馬 『奥州石ノ巻図』	1	昭53.8.1	羽黒町一丁目7-1	桜谷 博	近 世
旧石巻ハリストス正教会教会堂	1	昭55.12.20	中瀬3-18	石 巻 市	近 代
潮 音	1	昭55.12.20	羽黒町一丁目9-2	石 巻 市	現 代
イ チ ョ ウ (吉祥寺)	2	昭55.12.20	高木字寺前49	一方井文章	
イ チ ョ ウ (龍泉院)	1	昭55.12.20	水沼字天似113	泉 孝夫	
葛 西 椀	3	昭56.5.18	大瓜字棚橋168	坊澤敏和	
黒 潮 閑 日	1	昭56.5.18	松並一丁目5-2	石巻魚糧工業株式会社	現 代
石巻市渡波獅子風流	1	昭56.12.19	幸町6-33	代表 内海幸平	
漁 夫 像	1	昭57.12.15	羽黒町一丁目9-2	石 巻 市	現 代

# 昭和五十六年度文化財調査報告

## 石巻市南境地区の板碑

石巻市文化財保護委員 佐藤 雄 一

### 1、調査区域の概要

南境地区は安永風土記書上に「当村牡鹿桃生両郡之境南方ニ付南境と唱来候由申伝候事」とあるように、江戸期における牡鹿郡南境村に当る。北は桃生郡河北町に接し、西のトヤケ森山の東麓から、県道石巻河北線に沿って集落が転在している。南面は旧北上川沿いに耕地がひろがっている。南境村の中世期における記録は存在しないが、江戸期寛永頃の入口は、

人頭 六十一 内名子一軒水吞七軒  
男女都合 四百二十五人  
内 男 二百二十四人  
女 二百一人

という記録があるので、中世末期における南境村の様子を知る手掛りにはなるであろう。当時としては他の稲井地区の各村とくらべても小さくはなかったようである。河北町との境界地域には南境貝塚があるので、相当古い時期から生活の場として利用されてきたことを知ることができる。

### 2、板碑造立の状況

稲井南境地区の板碑を集録した文献としては、稲井町史、宮城県史(3)金石篇がある。前者には二十一基、後者には十四基が集録されている。しかし、今回の悉皆調査では紀年銘のあるもの二十一基、

いうことである。

紀年銘不明の断碑は今回の調査で新たに追加されたことになるわけである。

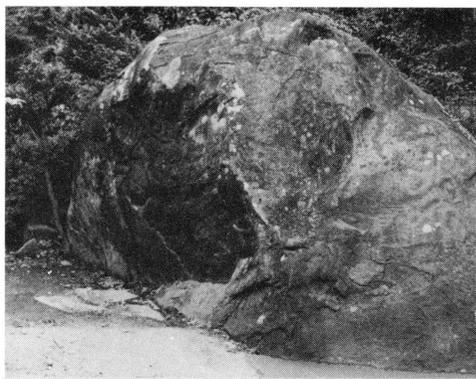
また、南境地区においても元弘二年(三三三)、興国二年(三四一)と続いた南朝年号が康永三年(三四四)―南朝興国五年―になって北朝年号に見事に転換しているのである。以後、南北朝の争乱が両朝合一によって終了するまで、南朝年号は使用されることはなく、貞治六年(二六三)、応安二年(三六九)と北朝年号が続き、室町期の応永二年(三九五)にいたっている。興国三年(三四三)の三迫の戦いによる南朝勢力の衰退を如実に物語っているといえるだろう。

南境地区における板碑確認の場所は、金蔵寺境内、八幡神社境内、齊の神地区に集中している。しかし、この三ヶ所に集中している板碑が造立当時の原位置であるかどうかについては確認されていない。むしろ、この三ヶ所の板碑群は保存のため周辺から集められたとみた方がよいように思われる。しかし、この三ヶ所は中世の館であると考えられている金沢館跡をとりまくようになっているのは、板碑の原位置を推量する際には大いに考慮されるべきことではなからうか。

南境地区の板碑で、原位置であると考えられるものは、No.1の通称的場石と呼ばれる興国二年(三四一)の碑、No.2の長石さまと呼ばれる康永三年(三四四)の碑、No.3の元舟場の紀年銘不明の碑、No.10の中斉後藤氏宅の曼茶羅の碑、No.31 No.32 No.33 No.34の松ヶ沢薬師堂の碑であると思われる。

### 3、特記すべき板碑

①的場石 南境館山一日野幸二郎の庭



前にある巨石は通称的場石と呼ばれている。土地の人達は、八幡太郎義家が八幡神社の境内から弓を射た時の的であると伝えている。的場というのは稲井鷲ノ巣地区にもあって、同じように八幡太郎義家と結びつけられている。おそらく、このいい伝えは、後世になって安倍貞任伝説とのからみで出来上ったものではないだろうか。この的場石については、安永風土記書上に「的場石・高八尺五寸、巾二間、厚五尺、円相の内梵字数多あるも処文字不明」という記述がある。前記の八幡太郎義家のいい伝えよりも真実を伝えているように思われる。それは円相内に梵字が刻されていることに注意している記述から察すると、往古の人達は、的場

石をむしろ「塔婆石」と呼んでいたのではないだろうか。それが、時代を経るにつれて円相内の梵字が不明になり、実態がわからなくなるにつれて、「塔婆石」が「的場石」に変わったのではないだろうか。的場石の実態は興国二年に造立された六地藏板碑である。偏平状の板石に彫刻されたものではなく、巨石に直接彫りつけたもので、磨崖の板碑と表現した方が適切かもしれない。



②八幡神社境内の元応年碑

さることながら、板碑を縁取っている線が、上部において、三角形の状態を示し、碑全体もそれに沿って、三角形の状態に調整されていることは、板碑の型式論からいっても注意すべきことであると思う。

4、種子について

南境地区の種子で特筆すべきは、No.11 通種の場合に刻されている六地藏種子であろう。アーク（釈迦如来）を主導に異体字をまじえての六地藏種子は宮城県内においては他に例がないのではなからうか。No.8 八幡神社境内の元応の碑の種子は、ロン（地藏）を表わし、No.15 金蔵寺境内の種子は五趾具足の種子アウシク（胎藏界大日如来）であり、ともに、紋様の彫り方は注意されてよい。他に多い種子はドンが六基と多く、キリク・サ・サクの一尊種子がともに三基、また曼荼羅種子と思われる九尊種子が三基ある。他は一基ないし二基であるので、このことから、南境地区の中世の信仰状況を推測することは困難であると思われる。強い種子についての見解を述べるとすれば、何といても前記の的場石の六地藏種子、八幡神社元応の碑の種子の見事に注意すべきだろう。

5、偈について

南境地区において確認された板碑の偈は次のようなものである。

①六大無碍常瑜伽 「即身成仏義」に

四種万荼各不離 による。

重々帝細名即身

三密加持速疾顯

②光明遍昭 「観無量寿經」に

十方世界よる。

念佛衆生 拈取不捨

③衆生 出典不明

□□佛生

如来常住 元有□有

④一佛成道 出典不明

觀見法界 草木国土

悉皆成佛

⑤現世安穩 「法華經」草草喩後生善處 品による

十方三世佛

一切諸菩薩

八方諸聖教

皆是阿孫陀

この偈は、古来、本朝淨土門古徳の釈文と伝えているが出典は不明、「阿字十方三世佛

孫字一切諸菩薩

陀字八方諸聖教

皆是阿孫陀佛」

⑦歸命天子 本地大勢至 為度衆生故 普照四天下

この偈は服部清道氏によると、月待板碑に現われる偈とされている。しかし、南境地区の板碑は□蓮禪定門一周忌の碑であった。

6、供養の内容について

四七日忌、百ヶ日、一周忌、三年忌、十七年忌、三十三年忌と一基ないし二基づつが確認されたが、全体として、これら年忌供養から意味のあるものを観察することはできなかった。しかし、寛正四年（二四三）と七年（二四六）の二基が逆修供養であることについては注意すべきであらう。

7、保存について

前述してあるように、南境地区の板碑は金沢館跡を中心に、八幡神社、金蔵寺、斉の神の五ヶ所に集中しているが、前三ヶ所については、移動可能なものも数基見られるが、八幡神社、金蔵寺の二ヶ所については神社、寺院といった場所から考えて、簡単には移動されることはないと思うが、小型の板碑については、早急に保存の方法を講ずべきであると思われる。しかし、斉の神地区の板碑は全体として保存の状況が悪く、南境地区板碑群の中で、もっとも早く、保存の方法を考えなくてはならないものようである。幸にして現在、整理されている場所は道祖神もあり、地区住民の信仰の場所でもあるので、現在地に保存することがのぞましい。

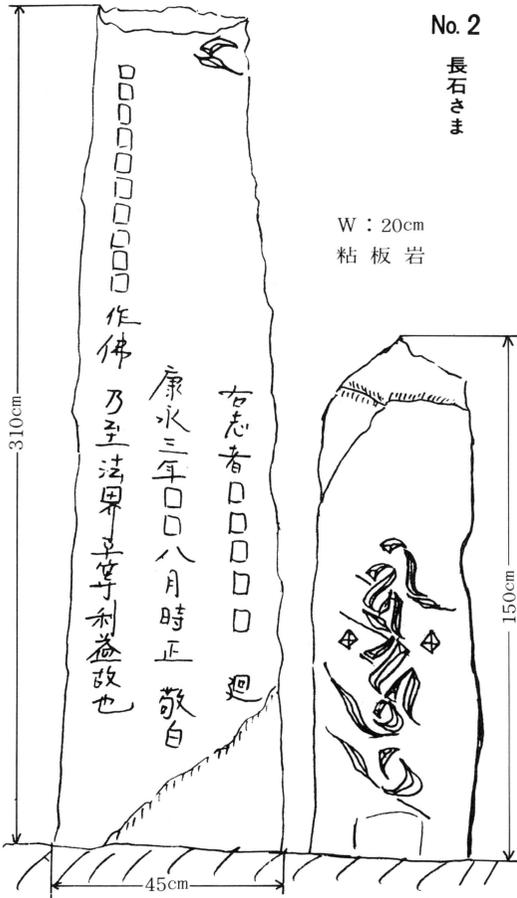
No. 1  
的場石



花崗岩

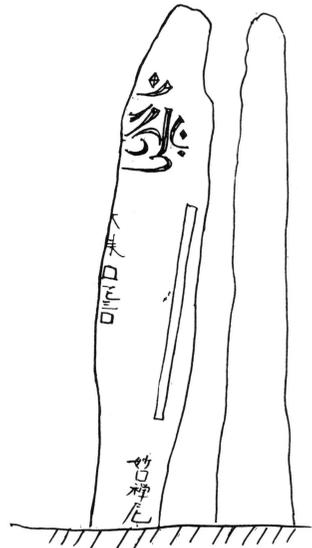
No. 2  
長石さま

W: 20cm  
粘板岩



一度剃髪

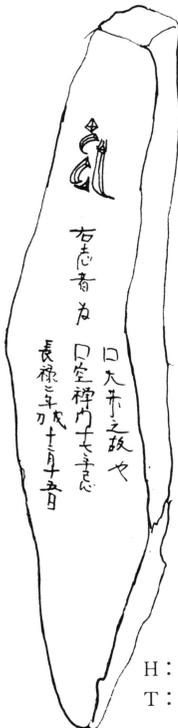
No. 4  
南境八幡神社



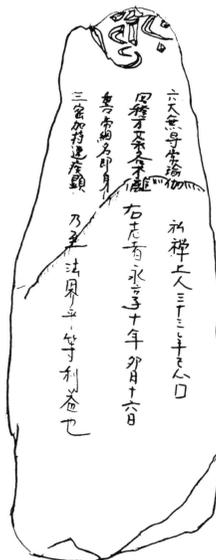
H: 125cm W: 20cm  
T: 12cm 粘板岩

No. 3  
南境元舟場

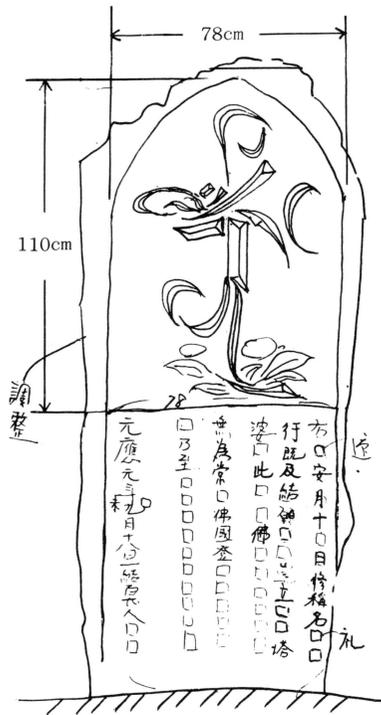
No. 5  
南境八幡神社



H: 110cm W: 16cm  
T: 11cm 粘板岩



H: 95cm W: 30cm  
T: 10cm 粘板岩



H : 234cm W : 85cm  
T : 10cm 粘板岩

No. 8

南境八幡神社



H : 84cm W : 20cm  
T : 7cm 粘板岩

No. 7

南境八幡神社



H : 92cm W : 32cm  
T : 6cm 粘板岩

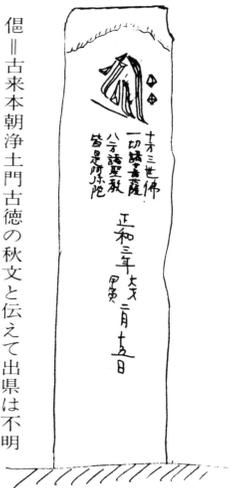
No. 6

南境八幡神社

No. 11

南境金蔵寺

但古来本朝浄土門古徳の秋文と伝えて出泉は不明  
「阿字十万三世佛 弥字一切諸菩薩  
陀字八万諸聖教 皆是阿弥陀佛」などという。



H : 120cm W : 18cm  
T : 15cm 粘板岩

No. 10

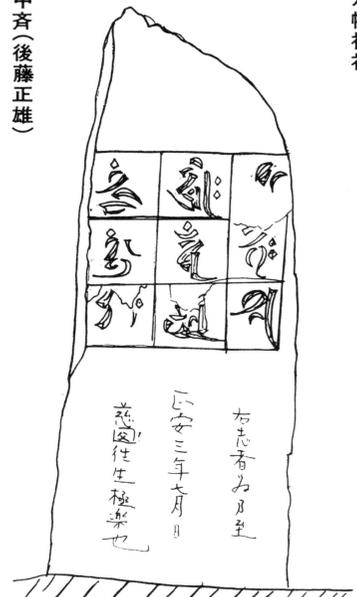
南境中斎(後藤正雄)



H : 76cm W : 43cm  
T : 3cm 粘板岩

No. 9

南境八幡神社



H : 165cm W : 42cm  
T : 14cm 粘板岩



No.20

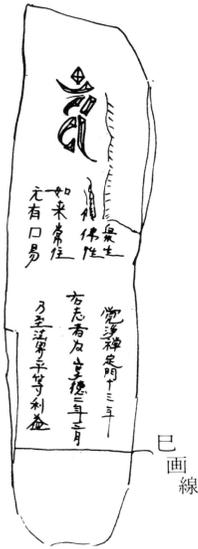
南境金蔵寺



H: 84cm W: 22cm  
T: 5 cm 粘板岩

No.19

南境金蔵寺



H: 95cm W: 20cm  
T: 9 cm 粘板岩

No.18

南境金蔵寺



H: 75cm W: 21cm  
T: 5 cm 粘板岩

No.23

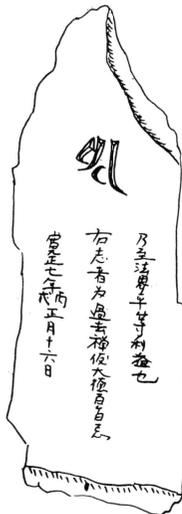
南境金蔵寺



H: 100cm W: 20cm  
粘板岩

No.22

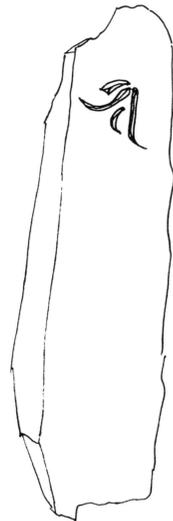
南境金蔵寺



H: 70cm W: 24cm  
T: 4 cm 粘板岩

No.21

南境金蔵寺



H: 90cm W: 15cm  
T: 7 cm 粘板岩

No.26

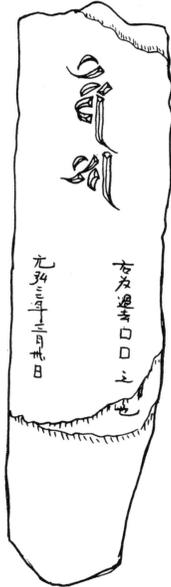
南境斎神



H:155cm W:50cm  
T:10cm 粘板岩

No.25

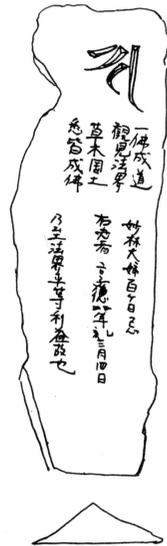
南境斎神



H:135cm W:26cm  
T:15cm 粘板岩

No.24

南境金蔵寺



H:82cm W:27cm  
粘板岩

No.29

南境斎神



H:118cm W:26cm  
T:10cm 粘板岩

No.28

南境斎神



H:140cm W:41cm  
T:8cm 粘板岩

No.27

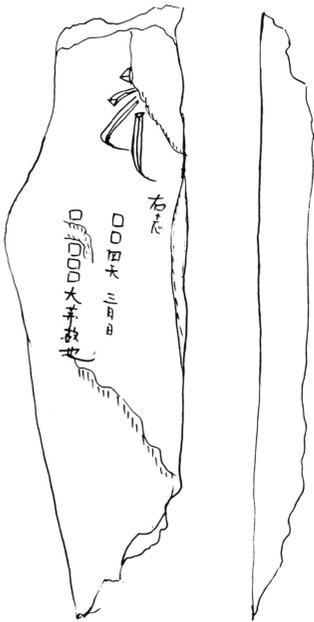
南境斎神



H:135cm W:28(35)cm  
T:10cm 粘板岩

No.32

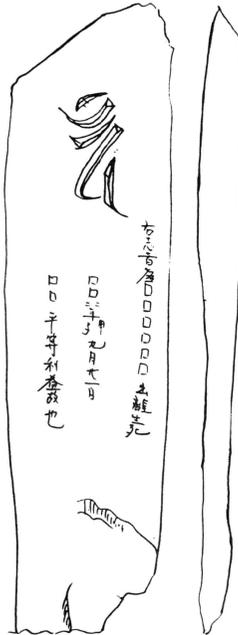
南境松ヶ沢山(薬師堂)



H:140cm W:34cm  
T:15cm 粘板岩

No.31

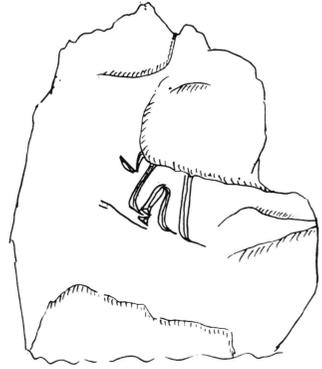
南境松ヶ沢山(薬師堂)



H:237cm W:49cm  
T:12cm 粘板岩

No.30

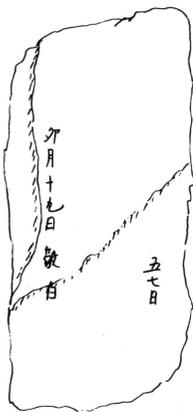
南境斎神



H:80cm W:57cm  
T:5cm 粘板岩

No.35

南境



H:76cm W:30cm  
T:4cm 粘板岩

No.34

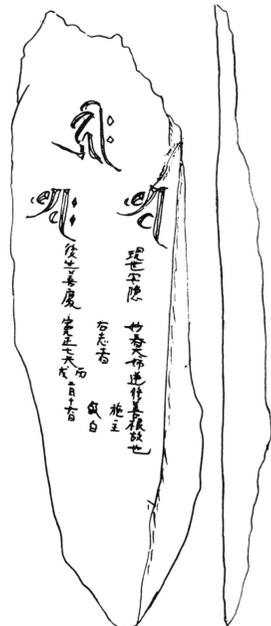
南境松ヶ沢山(薬師堂)



H:110cm W:24cm  
T:16cm 粘板岩

No.33

南境松ヶ沢山(薬師堂)



H:133cm W:30cm  
T:13cm 粘板岩

# 石巻市内におけるモクゲンジの 分布状況調査報告

文化財保護委員 佐々木 豊

## 1. はじめに

石巻市内にはところどころに野生のモクゲンジがあり、夏になると鮮黄色の花を咲かせて目につく。

モクゲンジは古くから寺の境内などに植えられたといわれるムクロジ科の落葉高木で、日本には自生しない植物だとされてきた。年代や事情は不明であるが、中国や朝鮮から渡来したものと考えられてきたのである。

モクゲンジの野生地が日本にあることが一般に知られるようになったのは最近のことである。現在までに、日本全国で十か所ほどの野生地が報告され、そのいくつかは天然記念物等の指定を受け保護の対象とされている。

石巻市内のモクゲンジについては、これまで二、三の報告書で取り上げられているが、全市域にわたる分布状況は明らかにされていなかった。

石巻市文化財保護委員会は昭和五十六年度に全市域にわたるモクゲンジの分布状況の調査をすることにし、筆者が調査に当たった。

調査は次の要領で行った。

### (1) 期間

昭和56年7月から昭和57年3月まで。ただし、一部補充のための調査を昭和

57年7月に行った。

### (2) 現地調査

モクゲンジの開花期である七月下旬から八月中旬までに全市域をまわり、モクゲンジの生育する場所を確認して二万五千分の一地図上に記入し、開花株数を記録した。観察は期間を置いて二回以上行った。

(3) 県内の主なモクゲンジの野生地との比較を行った。

(4) 日本各地の主なモクゲンジ野生地の資料との比較を試みた。

## 2. 石巻市におけるモクゲンジの分布状況について

今回の調査で明らかになった市内のモクゲンジ野生地をまとめると12か所になる。

図1は、野生地の場所と開花株数を地図に示したものである。

### (1) 住吉公園

旧北上川の西岸ではただ一か所、大島神社裏の石山西側斜面に全部で23株のモクゲンジが生育している。成木は2株だけで他は高さ1m前後の稚樹である。56年には開花した株はなかったが、57年には成木の2株が開花している。胸高直径23cm高さ約8mの株と、胸高直径16cm高

さ5mほどの株である。

石山の地層は北上山系の中生層で、いっしょに生えていた高木はケヤキ、エノキ、ニガキ。低木はヤブツバキ、ツルマサキ、ヤブサンザシなどである。

(2) 五松山・慈恩院ならびに多福院裏山・日赤病院裏。

生育場所は3か所、開花株数は113株、市内で最も大きなモクゲンジの群落である。

五松山から多福院にかけての崖状地には、石巻地方の海浜丘陵地の自然をよく保存しているといわれるケヤキ、シロダモを優占種とする自然林が発達している。この林にモクゲンジが混生している。開花株数は98株、最大の株は胸高直径40cm高さ15mである。高木が多いが、成木でも開花していない株が見られた。ケヤキ、シロダモのほか、高木ではケンボナシ、カヤ、エノキ、マメガキ、クヌギなど、低木ではアオキ、イヌガヤ、ツルマサキ、ヤブサンザシなどがいっしょに生えている。

ケヤキ、シロダモ林に隣接する日赤病院の裏の崖に11株の開花株が確認されている。崖の上はスギ植林地になっていて周辺はかなり人為の跡の見られるところである。

日赤病院の北東側にあつて南に突き出した崖地には、切株から再生した株が20株ほど見られ、3株の開花が確認された。近くの石材採取跡にも1株の開花株が見られた。この岩上には、クロマツ、テリハノイバラ、オオバイボタ、スカシ

ユリ、アオノイワレンゲ、ヒロウドシタなどがいっしょに生えている。

### (3) 大門崎

生育場所3か所、開花株数は全部で22株である。

国道のすぐそばで、いちばん突き出ている岩に低木状のモクゲンジが生育している。約70株あり、開花している株はそのうちの10株であった。崖の上には数年前までクロマツの太木が生えていたが、マツクイムシの被害にあつて枯れてしまった。現在生えているのはケヤキ、オオバイボタ、ヤブサンザシ、スカシユリ、アオノイワレンゲ、テリハノイバラ、キズタ、アキカラマツ、フジ、カワラナデシコなどである。

牧山への参道石段右側の崖地に、胸高直径7〜20cm高さ2〜5mのモクゲンジが10数株生えている。開花株は10株で、ケヤキ、ニガキ、ツルマサキ、ヤブサンザシなどといっしょに生えている。さらに東寄りの高さ50mほどの崖地に2株のモクゲンジの開花が確認された。クロマツやケヤキなどの散生するところである。

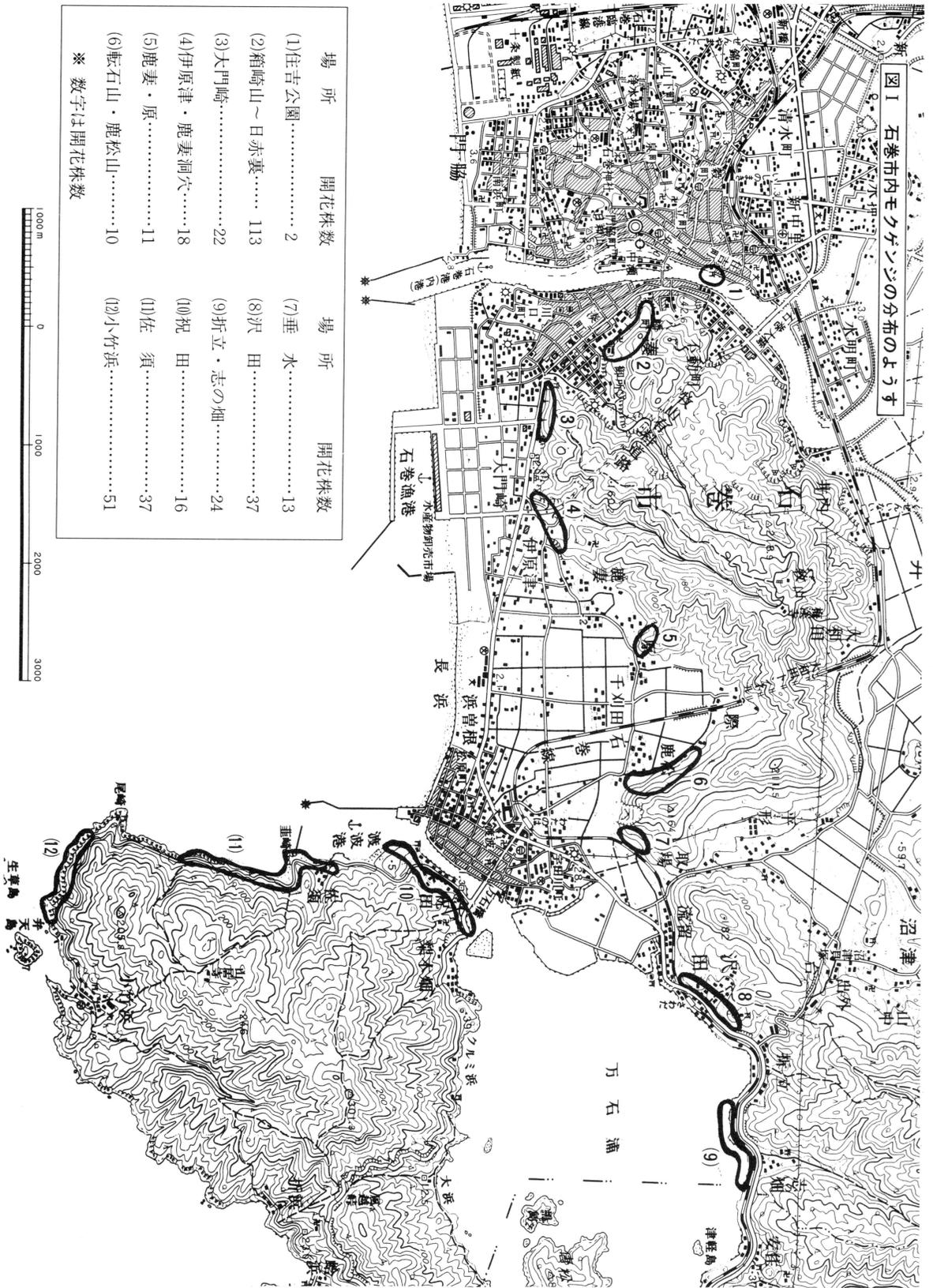
### (4) 伊原津・鹿妻洞穴附近

生育場所3か所であつて開花株は18株。

国道から旧道に入つて左側の家々の裏の崖地を見ると低木状のモクゲンジが見られ、3株の開花株が確認された。上部はケヤキ林になっていて、モクゲンジはケヤキ、クロマツ、カシワ、スカシユリなどといっしょに生育している。

鹿妻山の南端の崖地に5株の開花株が

図1 石巻市内モクゲンジの分布のようす



あり、最も大きいものは根もとで株分かれをして、直径がそれぞれ35cmと5cmで高さは4mである。ケヤキ、ニガキ、ヤブサンザシ、ツルマサキなどといっしょに生えている。

鹿妻洞穴の周囲の崖地には、クロマツイブキ、カシワ、ハマギク、スカシユリなどといっしょに低木状のモクゲンジが多く生育している。開花株は10株で胸高直径20cmのものが最も大きい株であるが低木状の開花株がほとんどである。オニヤブソテツ、マメツタなど暖地性のシダ類も見られた。

#### (5) 鹿妻・原

生育場所2か所、開花株数は11株。鹿妻の菅原神社附近のケヤキ、カヤなどの林の中に点々と開花しているモクゲンジが3株確認された。

その東の原の崎山の崖地には低木状のモクゲンジが生えていて、8株の開花が確認された。

#### (6) 転石山、鹿松山

生育場所4か所、開花株数は10株。

転石山は人家の裏山で、2か所にモクゲンジが確認できたが、開花しているのは1株だけであった。

鹿松山の麓の小法師には、胸高直径25cm前後のモクゲンジが6株、ケヤキ、シロダモ、カヤ、ケンボナシなどと林をつくっている。低本層にアオキ、イヌガヤ、ヤブサンザシなどが見られ、(2)のケヤキ・シロダモ林と似た種類構成を示している。モクゲンジは稚樹も多い。開花しているのは3株だけであった。

鹿松山の中腹、牡鹿の松の生えていたといわれる附近の崖地に3株の開花が確認された。

鹿松山の東端、不動尊の社の裏の急傾斜地にもケヤキ、シロダモ、ミズキ、エノキなどといっしょに低木状のモクゲンジが生育しているが、開花しているのは3株でかなり上部の方に見られた。

#### (7) 垂水

生育場所は2か所、開花株数は13株。

採石場の近く、石巻線の線路沿いに5株の開花が見られた。低木状のものも生えているが開花株は見られない。

その東側、線路沿いの林の中に8株の開花しているモクゲンジが見られた。高さ6〜7mの成木である。

#### (8) 沢田

生育場所2か所、開花株数37。

国道沿いの竹やぶのそばに開花株が1株確認できた。

国道をさらに東に進むと、字沢田から上の台にかけての崖地に低木状のモクゲンジがかなり多く見られる。直径15〜20cmの切り株から萌芽を出して再生したものがほとんどである。ここの崖地は金華山軌道がつくられたときに崩された場所であるということである。36株の開花を確認した。

#### (9) 折立、志の畑

3か所で24株の開花を確認した。すべて石巻線の線路の南側、万石浦の岸辺に近いところである。

折立では、万石浦に突き出した石の多い浜に胸高直径10cm以上のモクゲンジが

11株と若い木が多数見られる。開花していたのは9株で、最大のは胸高直径22cm、高さ約7mであった。いっしょに生えていたのはケヤキ、ニガキ、クマノミズキ、クロマツ、ツルマサキ、オオバイボタ、ヤブサンザシ、クルミなどであった。

志の畑では線路近くに4株のモクゲンジの開花が確認された。

志の畑から女川町安住にかけての万石浦の岸辺にはかなりの数の開花株が見られるが、石巻市域の分は11株であった。最大の株は胸高直径15cm、高さ6mほどであった。

#### (10) 祝田

生育地6か所、開花株数16株。

万石浦の岸辺、県道鮎川線のそばに、高さ3〜4mの開花株が2株生育している。

人家の近く、崖地のケヤキ林の中、湯殿山の石碑のそば、畑のそばなど4か所に8株の開花が確認された。最大の株は胸高直径20cm、高さ5mほどである。

56年の調査では発見できなかったが、57年に大森の石巻湾に面した急な斜面に6株の開花を確認した。大きさ等については未調査である。

#### (11) 佐須浜

生育場所6か所、開花株数37株。

佐須浜の入口に20株の開花株があり、みごとな景観を見せている。ケヤキ、ミズキ、カシワ、ヤブツバキ、エノキ、イヌガヤ、ツルマサキなどと群落をつくっている。胸高直径25cm、高さ8m前後のものが多い。

葦崎には低木状の株が多い。5株が開花していた。葦崎から尾崎に向かう途中に6株の開花株が見られる。胸高直径25cm前後の株である。

尾崎の少し手前、山居への登り口の沢すじの崖状地に6株の開花が確認できた。ケヤキ、ニガキなどといっしょに生えていて、一部分クズに被われている。

#### (12) 小竹浜

生育場所3か所、開花株数51。尾崎の東から小竹浜の西にかけての海岸の急傾斜地に見られる。

最も西の群落は尾崎の南東の突端で、岩礫の多い、風当りの強い環境に見られ急傾斜地の上から海岸に細長い形の低木林をつくっている。開花しているのは5株で周辺部に見られた。

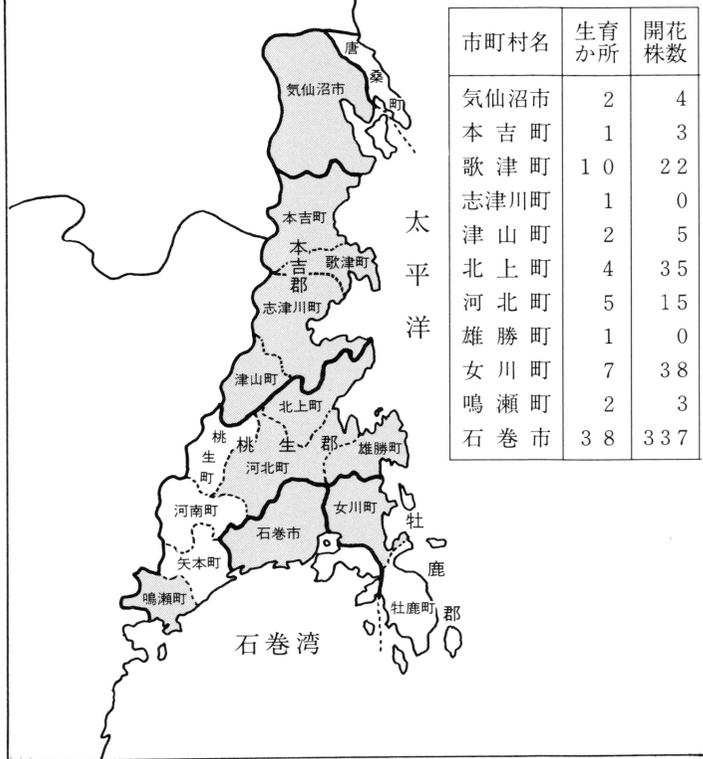
その東200mほど離れたところに開花しているモクゲンジが5株散生しているのが確認された。下部にはクロマツが生えている。船で海上から観察したので、低木の確認はできなかった。

尾崎と小竹の間で最も海に突き出ている崎の南東斜面に、開花株41を数える群落がある。この群落の下部ではクロマツが、上部ではカシワが目につく。開花していない低木状のものも見られ、(2)のケヤキ、シロダモ林に次ぐ市内第二の大きなモクゲンジ群落である。

以上、市内の12地区で、38か所のモクゲンジの野生地を記録し、337株の開花を確認することができた。生育のようすをまとめると次のようになる。

- (1) 牧山の南麓から万石浦の北岸、祝田浜から小竹浜にかけての石巻湾岸の15kmあまりの山麓、海岸の似たような環境に、群落をつくって、断続的に野生の状態分布している。
- (2) 生育地の地層は、すべて北上山系中生代の粘板岩からできている。
- (3) 海岸、または海岸に近い丘陵地で、南向きの、海の影響のみられる環境である。地形的には崖、または傾斜の急な斜面で岩が露出したり、崩れ落ちた岩の重なっているようなところである。
- (4) いっしょに生育している主な樹木は、高木ではケヤキ、シログモ、エノキ、ケンボナシ、カヤ、ニガキなど。低木ではツルマサキ、ヤブサンザシ、イヌガヤ、オオバイボタなどである。
- (5) モクゲンジの大木は、風当りの弱い斜面下部のケヤキ林の中に混生しているものが多い。
- モクゲンジの低木群落は、崖の上部や風当りの強い傾斜地に見られ、純群落状に密生することが多い。
- 人家近くのモクゲンジは人為の影響を強く受けているものが多い。伐採された株から萌芽によって再生したものが目立つ。樹高はケヤキ林のモクゲンジと低木のモクゲンジとの中間の高さを示すものが多い。
- (6) 成木であっても毎年開花するとは限らないし、低木であっても開花するものがある。
- (7) 根から萌芽を出しているものがある。

図II 宮城県北部のモクゲンジの分布のようす



3、宮城県におけるモクゲンジの分布と石巻

石巻市のモクゲンジの分布状況は、宮城県としてみた場合、どの程度の意味をもっているのかわかるか。  
 県内でモクゲンジの分布について情報のあるのは、石巻市のほかには、気仙沼市、本吉郡、桃生郡、牡鹿郡である。これらの郡、市の海岸と海岸に近い丘陵地の南向きの崖地を中心に、モクゲンジの有無を現地調べてみた。  
 短時間に行った1回だけの調査であるから完全とは言えないが、おおよその分

布状況は把握できたと思う。図IIは調査結果を市町村別に表したものである。

- (1) モクゲンジの野生地、開花株数ともに最も多いこと
  - (2) モクゲンジの生態が最もよく観察できること
  - (3) 最も大きなモクゲンジの群落があり、最も自然な野生状態が観察できることが確かめられた。
- 宮城県におけるモクゲンジの分布の中心は、石巻市にあるといつてよい。

4、日本におけるモクゲンジの野生のよす

日本におけるモクゲンジの野生地の資料を表1にまとめてみた。岩手県のものについては現地調査を行ったが、他は文献によるものである。兵庫、福井、鳥取の各県にも野生があるとされているが、資料は入手していない。  
 この表を見て気づくことは、石巻市が日本で最もモクゲンジの多い地域ではないかということである。入手していない資料はあるものの、その可能性は大きいものと思われる。

5、まとめ

- ① 石巻市内に見られる野生のモクゲンジを開花期に調査し、分布のようすを明らかにした。野生か所38、開花株数37であった。
- ② 宮城県内のモクゲンジを調査することにより、宮城県におけるモクゲンジの分布の中心は石巻市にあることが明らかになった。
- ③ 入手できた国内のモクゲンジについての資料を検討した限りでは、石巻市は日本で最もモクゲンジの野生の多い地域であるということができた。
- ④ 日本に自生しないとされているモクゲンジが、どうしてこの地方に、このように大量に野生するようになったのであろうか。自生ということを考えてみる必要はないのであろうか。いずれにしても、当市のモクゲンジは学術的に貴重なものである。天然記念物としての指定をし、

表1 日本の主なモクゲンジ野生地

所在地	分布のようす	株数	天然記念物などの指定
①岩手県東磐井郡川崎町薄衣	畑・人家の周辺、萌芽で再生した低木が多い。 大きな株、胸高直径15cm、樹高4cm。	約50株 (開花株30)	
②青森県西津軽郡岩崎村	モクゲンジ・エゾイタヤ林、胸高直径4~12cm 樹高2~6m	20数株	村指定
③山梨県南巨摩郡中富町三ツ石	モクゲンジ、ヤマブキ群落 根まわり平均0.5m、高さ8m以下	約50株	県指定
④島根県隠岐郡都万村油井	ハルニレ、ネムノキ、トベラ、エノキなどとの混生する低木群落		
⑤山口県光市牛島	カラスザンショウ、ハゼツキ、ケヤキなどの散生する林の亜高木層で優占。高さ5m、胸高直径8cm、1ha内に数か所。		
⑥長崎県対馬	2か所、幼苗が多い。大きいものの幹まわり50cm、高さ5m。		
※石巻市	延長約15km・38か所、自然林混生、低木林、萌芽再生。大きな株の胸高直径35cm、高さ15m。	(開花株 337)	

この表に使用した資料は主として、環境庁編(昭和55年)「日本の貴重な植物群落」の植生調査票に依った。⑥については植物研究雑誌49巻2号(昭和49年2月)の高等植物分布資料(84)「モクゲンジ」に依った。

保護することが適当と考えられる。  
石巻市文化財保護委員佐藤雄一先生は、調査に協力をしていただいた。宮城植物の会(会長木村中外尚綱短大教授)の会員有志の方々からは、県内のモクゲンジについての情報を提供していただいた。

た。国立科学博物館金井弘夫博士には、モクゲンジの標本閲覧に便宜を図っていただいた。また、調査地では、たくさんの方々にお世話になった。  
ここに、記して感謝申し上げる次第です。



折立(万石浦)のモクゲンジ



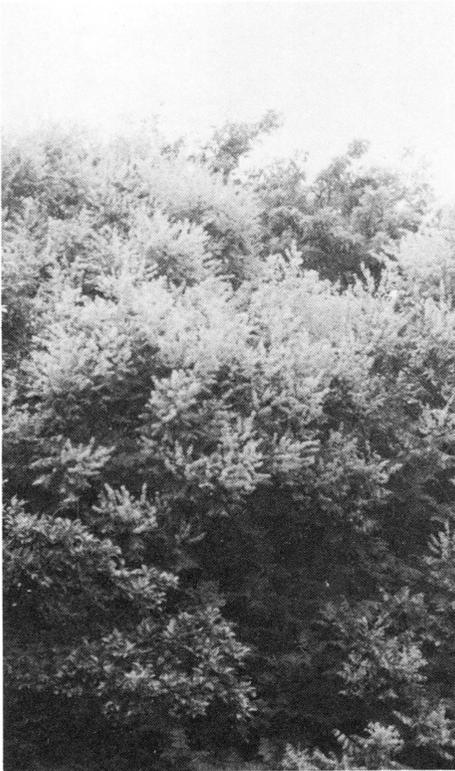
湊ケヤキ・シロダモ林のモクゲンジ



小竹のモクゲンジ(低木群落)



日赤病院裏のモクゲンジ



佐須のモクゲンジ(1)



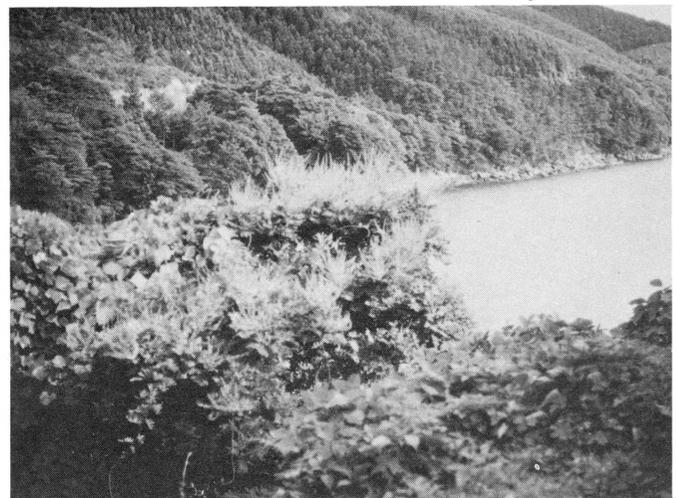
モクゲンジの花



大門崎のモクゲンジ



小竹のモクゲンジ (群落)



佐須のモクゲンジ(2)

# 越田台遺跡発掘調査報告(一)

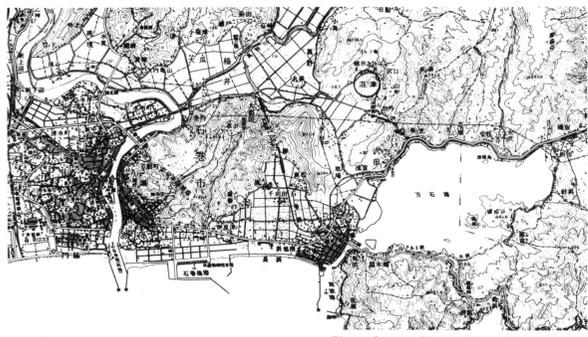
石巻市文化財保護委員 木村敏郎

## 発掘調査の目的

昭和五十七年春、耕作地の整備を兼ねた土建業者の土取りによる現状変更の申請があった。

越田台遺跡については、既に、宮城県が実施した埋蔵文化財分布調査の時点で土師器、須江器片の散布が確認されている。

また、先に、石巻市教育委員会が「文化財は市民共有の財産」として、石巻日



越田台遺跡発掘位置図(○印) (建設省国土地理院発行五万分の一地形図「石巻」を縮小して使用)

日新聞に「ふるさとの遺産——埋蔵文化財シリーズ」を連載した際、越田台遺跡のもつ歴史的意義とともに、この遺跡の保存について訴えている。(昭四九・一一、二一号)

稲井地区を圍繞する諸丘陵に散在する土師・須江の遺跡群は、石巻地方の古代史を解明する上で、いずれも貴重であるが、特に越田台遺跡は、遺物(土師・須江)の散布する範囲が広く、その数量も多いので、当然多数の堅穴住居が埋没しているものと考えられ、律令時代の集落の実態や、庶民の生活を知る上で貴重であることが指摘されてきた。

今回の調査は、この遺跡の遺構の保存状態を調査することであり、以後の保存対策を講じる資料を求めるために実施されたものであり、所謂現状変更に伴う緊急発掘調査の予備となるものであった。ここで報告するのは、このことについての概要であり、出土遺物については、整理を終えてから次回の記事とする。

## 調査団の編成

調査主体者 石巻市教育委員会

(教育長 濱田九重郎)

調査員 石巻市文化財保護委員

木村敏郎

## 調査補助員

石工教諭	佐藤雄一
”	鈴木東行
”	石垣宏
”	土井光夫
”	茂木好光
”	赤石沢亮
”	菅原修
”	中沢真奈美
”	小林信夫
石巻高等学校有志	
石巻工業高等学校有志	

## 調査協力者

地権者	阿部多賀光
鈴木土建	阿部英紀
	鈴木嘉太郎

## 調査事務局

石巻市教育委員会社会教育課文化係	向陽町 岩崎昌義
	大門町 阿部芳夫
	吉野町 近江史郎
稲井小学校	

## 調査期間

予備調査	昭和57年5月3日～5日
本調査	昭和57年8月6日～15日

## 遺跡の所在及び調査地点

越田台遺跡は、沼津貝塚とは北約二百メートルを隔てて隣接している。

京が森から派生する標高二百メートル前後の丘陵に囲まれ、小規模な盆地状となり、丘陵の裾野は緩傾斜地となっている。

一帯は日照の良い畑地で、所々に民家が点在している。

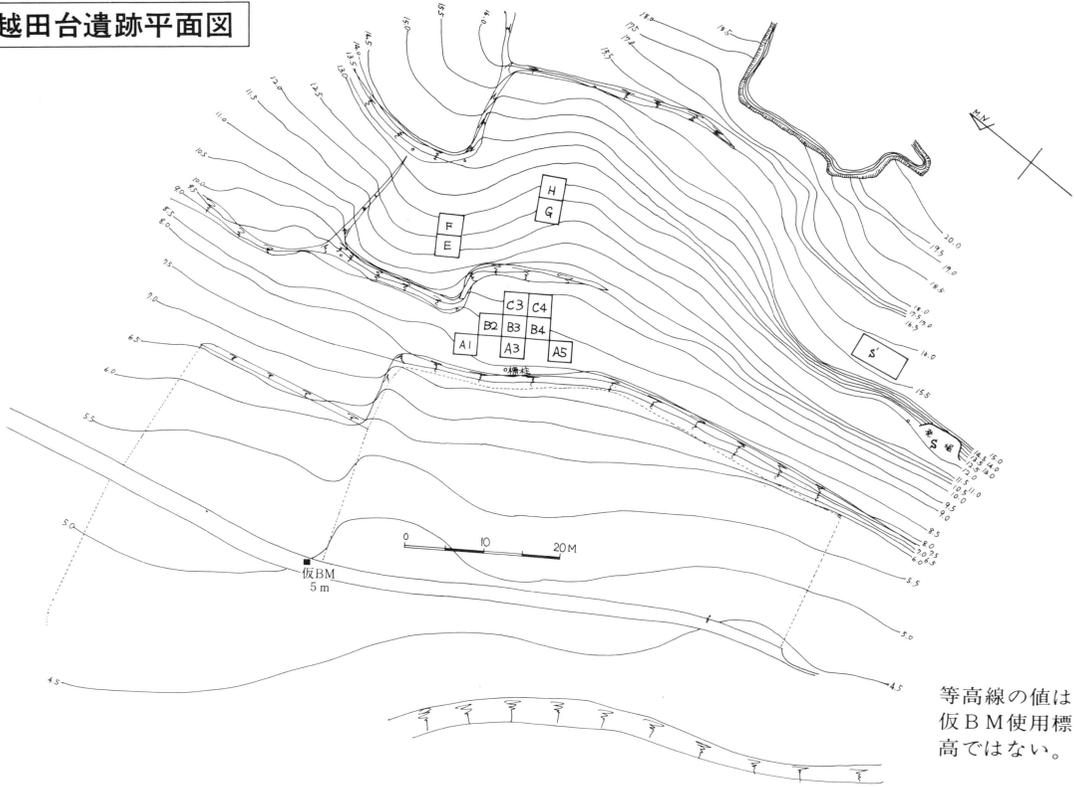
本遺跡は、この盆地状地形の中に舌状に張り出す標高約二十メートルの小丘陵の西側斜面、畑地一帯に展開している。

遺跡の前面に湿地(水田)が広がり、それを隔てて沼津貝塚に接続する鶴館がある。

本遺跡の西には、真野川域大湿地(大谷地)が広がり、東南部の丘陵を越えれば、一キロメートルほどで万石浦に到達する。



越田台遺跡平面図



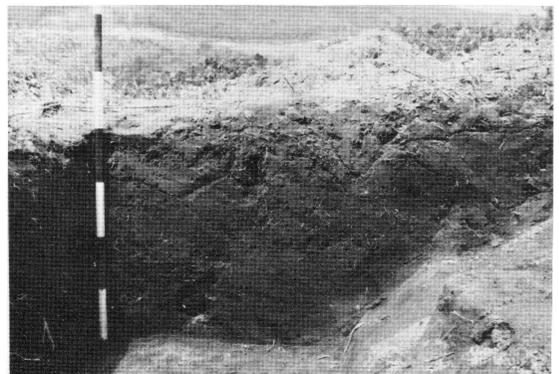
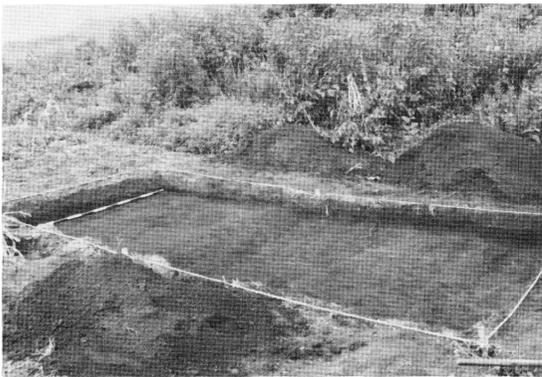
等高線の値は  
仮BM使用標  
高ではない。

調査の方法

現状変更申請があった約七千平方メートルの区域の大部分は、桑畑、普通畑及び放棄された荒畑で、一部杉林になっている。

標高七・一〇、一三メートルのレベルを中心に段畑状の削平面があり、過去における畑地造成の際、原地形の変更があった。

調査期間が短期間に限られているため、五月に予備調査（表面調査）を実施、その結果、遺構の残存可能性が高いと考えられた標高（仮BMによる）八一〇メートルで調査対象区域の北西地点に主発掘区を設定した。この地点は、市教育委員会が標柱を設置した区画である。



発掘区は、3×3メートルを一区とし、千鳥状に連接、拡張することとした。

発掘調査の経過概要

8月6日

● 発掘調査隊、班編成（発掘班3班、測量班1班）

● 発掘区（A1、A3、A5、B2、B4グリット）設定

● 表土剥離

A1及びB2グリット表土（耕作土）下は地山層（白色凝灰岩質砂層）となり、このグリット調査完了

8月7日

● 稲井小学校よりテント借用、発掘区を保護する。

● A3グリットは表土下の攪乱層（茶褐色土層）が深く、1メートルル20センチ掘り下げて黒色土層となり、縄文土器、弥生土器片を採集した。

● 主発掘区地点の上段畑地にG及びHグリットを設定、表土下より10～15センチ程度の黒色土層、遺物遺構とも認められず、地山層となることを確認した。

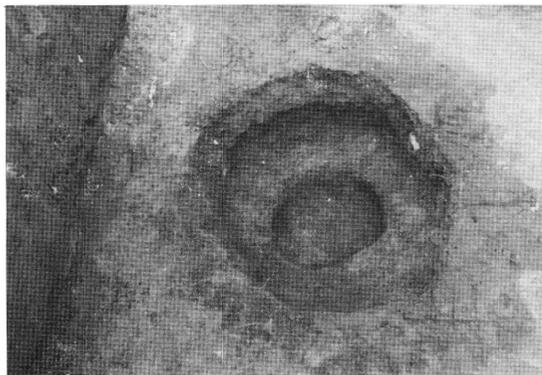
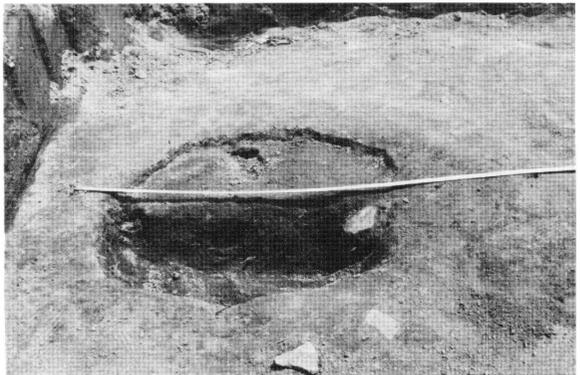
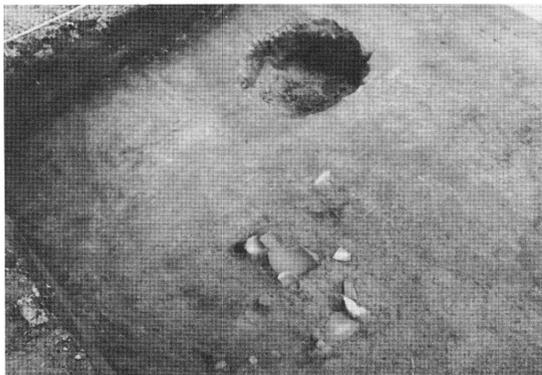
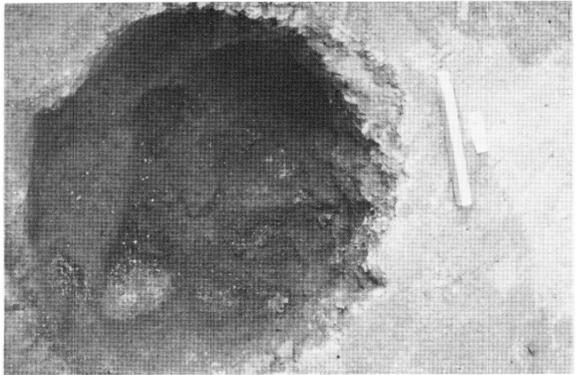
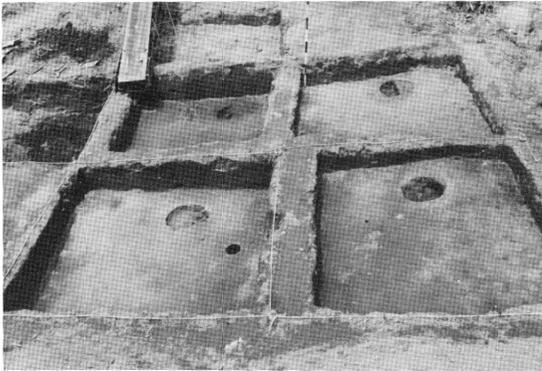
● 地点を移動してE、Fグリットを設定、地山層が耕作土となっていることを確認した。

● B4グリットに、表土下より径約60センチのピット（No.1）が認められた。

8月8日

● B4グリット精査、小ピット（No.3）を確認した。

● B4を拡大調査するため、C4グリット



グリットのピットとほぼ同じ形態のピット（No.2）が現出した。

● 調査対象区域の南端、標高12メートルの段差面に貝層確認、Sトレンチと呼称する発掘区を設定した。

8月9日

● Sトレンチは土質にしまりがなく攪乱層で、貝や土器器片等を含むことを確認セクションを作成した。

● Sトレンチの攪乱層は上段からの覆土であることから、上段面にSグリットを設定した。

● B4、C4グリット精査、プラン作成開始。

● ベルトコンベア搬入、C3グリット発掘から活用、ピット（No.4）を確認した

8月10日

● B3グリットからピット（No.5）を確認、径約60センチのピットが、3メートル間隔、サイの目状に4箇所出そろった。

● C2グリットを発掘するが、B2と同様、遺構は確認できなかった。

● 測量班及び高校生の作業終了。

8月11日

● C3、B3グリット精査、No.4ピット及びNo.5ピットを実測。

● B4、C4グリット間のベルトを除き2つのグリットを接続した。

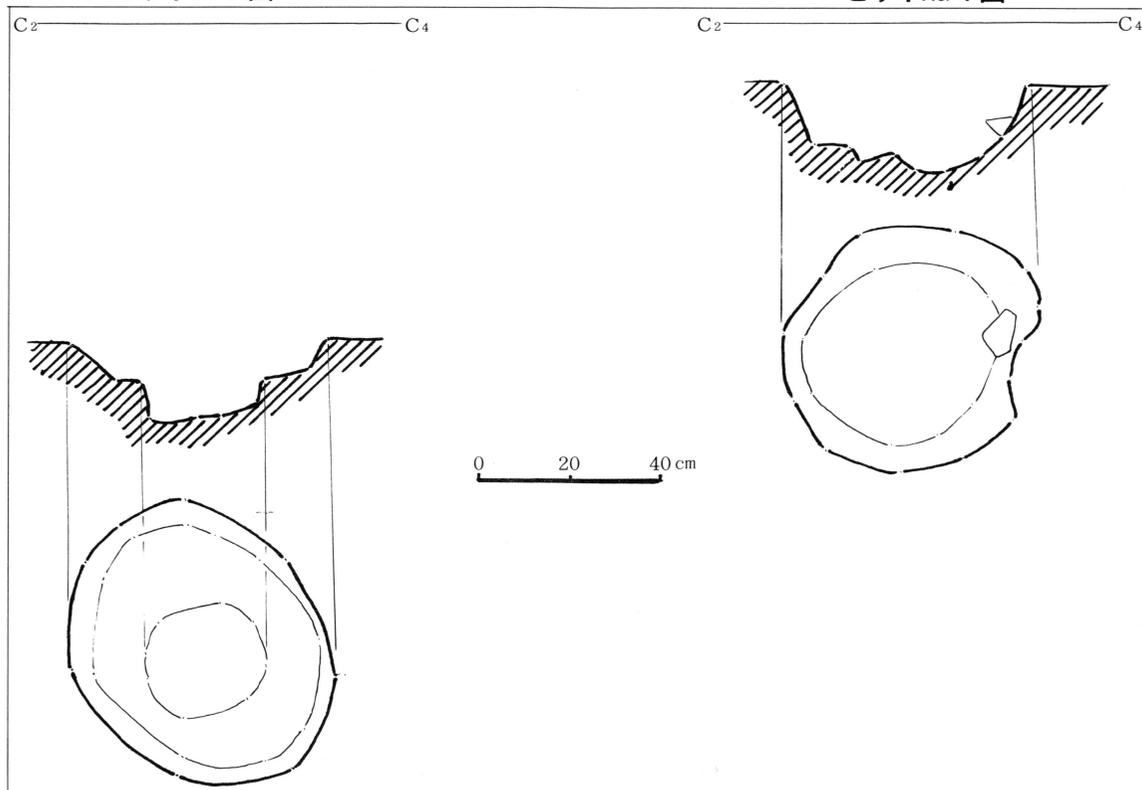
● Sグリットの断面整理、セクション作成。

8月12日～15日

● B4、C4プラン実測、床面に貼りつけて出土する遺物を実測図に記入しながらの作業となる。（プラン記入土師片は

ピットNo.5 図

ピットNo.4 図



一七九点)

●作業用具収納、発掘区保存作業

### 考察

この調査の結果、B3、B4、C3、C4グリットに一箇所ずつ、四つのピットが現れた。

ピットの径は、いずれも約六〇センチメートル、深さは二〇センチメートルほどである。

ピットは約三メートルの等間隔で、サイズの目状に認められた。

ピットNo.2とNo.4は、ほぼ同じレベルにあるが、No.4に対してNo.5、及び等No.2に対するNo.1は、約六〇センチメートル深いレベルにある。

B3及びC3グリットの南側は傾斜して厚い覆土がみられる。その下から、遺物（主として土師器片）の出土が多く、凹地状の堆積地状になっている。調査期間の関係で、この部分の調査は未了のまま調査を終えた。

床面の確認ができず、ピット以外の遺構も認められず、堅穴住居跡とするには難点があるが、四箇のピットは柱穴状であり、プランは明確でないものの、建築遺構であることには相違ない。

このグリットから出土する遺物は、栗圀式に比定される土師が主体で、内黒、口縁部内弯、底部へら切り、有段の坏が多く、半月状窓、方形窓の高杯台部も四点出土している。

この遺構の地点から南には急斜面が続

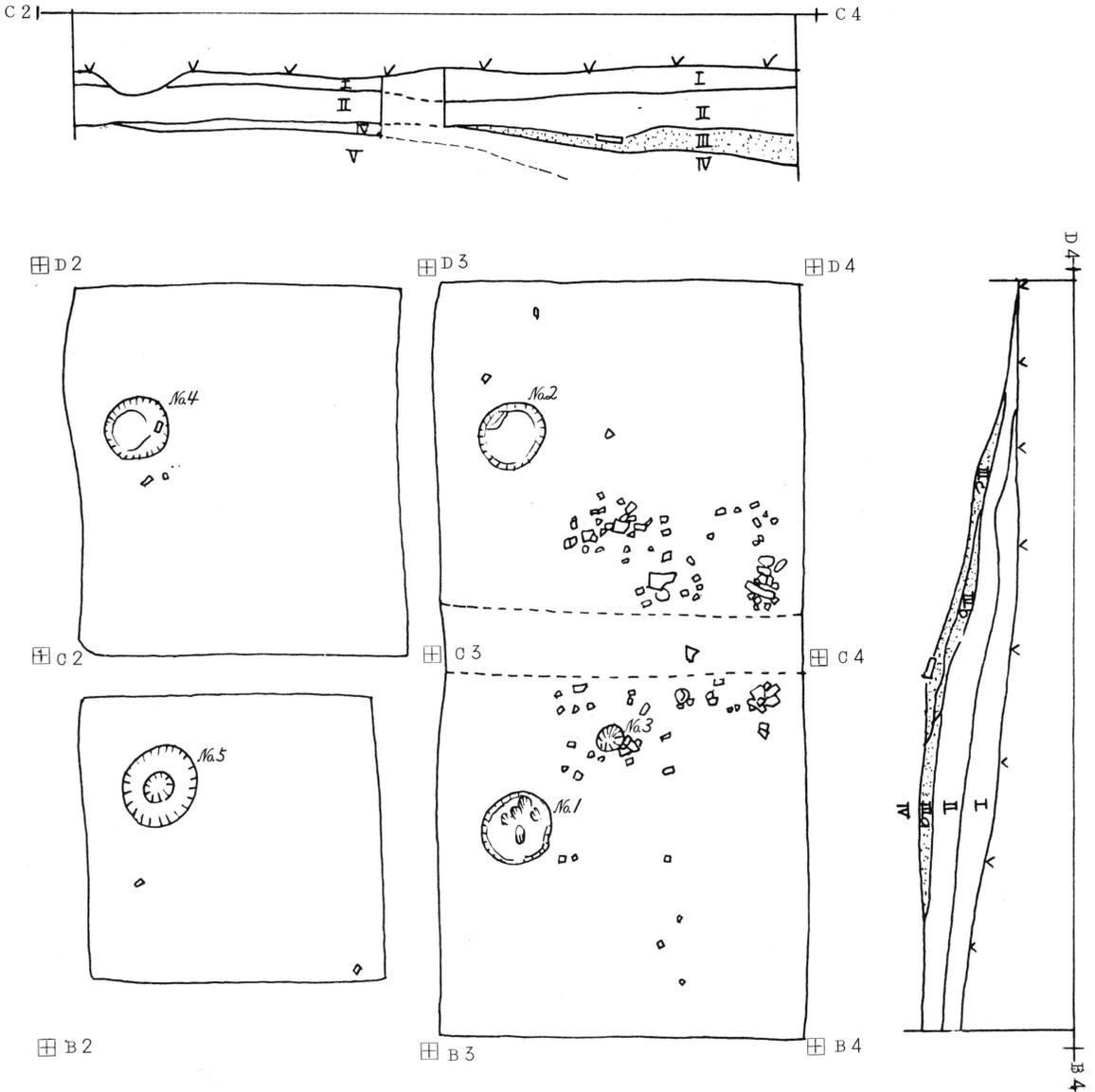
き、荒れた段畑となっている。段差に貝（カキ、アカニシ、ハマグリ等）の貝や土師器、須江器片を含む攪乱層がある。段畑造成の際の削平により、上段にあった遺構が破壊されて崩落し堆積したものと思われる。

上段にトレンチSを設定して調査したところ、厚い覆土の下に包含層が認められた。この付近にも遺構残存の可能性がある。

### 越田台保存に関する意見

土取りによる現状変更申請範囲の中で東西斜面部分は、七世紀～八世紀後半を中心とする集落遺構を現出する可能性が高い。土取り作業を中止させることは耕作の安全面から考えても不可能である。現状変更予定地の全面剥離による調査を実施、記録保存の万全を期することが望まれる。

なお、今回申請外におかれている越田台遺跡の残存部分についても、早急な対策を講じる必要が生起している。

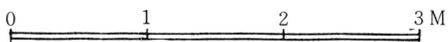


昭和57年 8 月

越田台遺跡

B3、B4、C3、C4グリット図

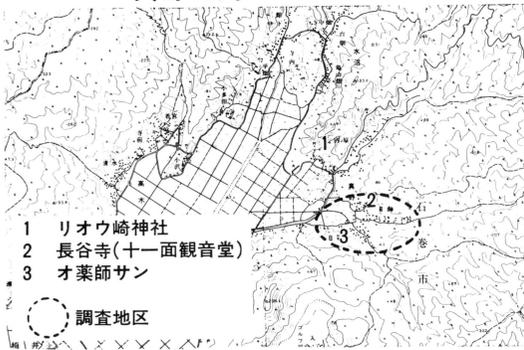
縮尺



断面

- I. 表土 (耕作土)(黒っぽい、しまりのない砂質土)
  - II. 茶褐色土 (ビニール等を含む、攪乱層)
  - III. 暗茶褐色土 (白色微粒子状質を含む)
    - III a (IVより粗い感じの土層、しまりあり、酸化土塊を含む)
    - III b (IIより黒っぽい)
    - III c (IIより黒っぽい、カキ片粉状物、遺物を包含する、炭化物、酸化土塊を含むしまりがある)
  - IV. 黒色土層 (粘質、しまりがある)
  - V. 白色凝灰岩質砂層 (地山と考えられる)
- ※IV、V層の区画は明瞭でない。

真野日向・日影地形図



- 1 リオウ崎神社
- 2 長谷寺(十一面観音堂)
- 3 才薬師サン

調査地区

真野日向・日影民俗資料調査報告

石巻市文化財保護委員 鈴木東行

はじめに

真野日向・日影は石巻の北東部に位置する小さな部落である。

往時は田5〜7反位の農家が主であったので山林と「真野畳」を副業として生活をしてきた。

特産品「真野畳」は現在は生産されていないが、昭和20年頃まで、寒い冬に馬の荷ぐらで女川や渡波・牡鹿半島方面に運んでいく光景が見られたものだ。

今回の調査は古老からの聞き取り調査を主にし、調査日程の関係から民俗・民

具の資料を得ることに主眼をおいて実施した。

調査日程：予備調査…昭和56・7・16

本調査…昭和56・8・1〜8・24

調査項目…生産暦・食・仕事着・住・運輸

年中行事  
交易・社会生活・人の一生

調査者…文化財保護委員：鈴木東行

石巻工業高校教員：木村司

調査補助員…石工高人文科学部員

木村健久・渡辺

菊地康悦・宮川秀明

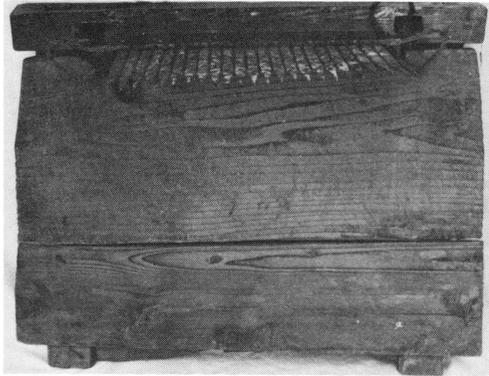
鈴木照一・岩淵洋之  
後藤正徳



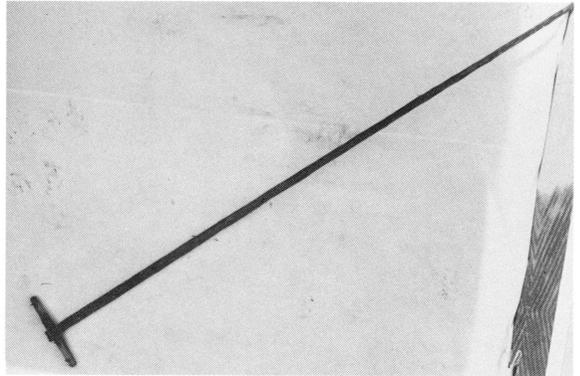
真野日向（昔は日向沢は材木を流すことにも利用された）

		生産暦				調査地	稲井真野日向		調査の日	昭和56.8.23		話者
旧暦	種類	米	麦	大豆	養蚕	山仕事		真野畳				
						薪とり	炭焼					
1月											奥高津橋 徳泰治	
2月												
3月		種もみつけ										
4月		種まき			春こ						男男 六十八才	
5月		田植え 一番草										
6月		二番草	刈取り	種まき	夏こ					※刈取り(2年目の) 乾燥		
7月		三番草								夏 ぶ		
8月										い草刈取り 乾燥(3日〜4日)		
9月										い草種えつけ		
10月		刈取り 脱穀	種まき	取穫						特に時期は さだまってい ないが、 特に薪業を 専門とする 者が行った		
11月									7日〜8日 間。山の 大きさによ って焼か まの回数 が生か まる。	冬 ぶ み	（女の人の仕事）	
12月			麦ふみ							冬 ぶ み		

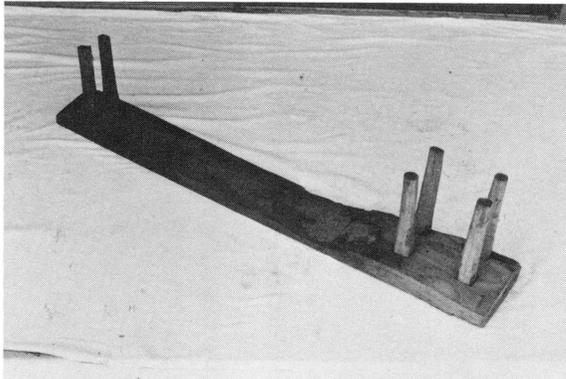
※注…2年目以後は刈り残しのい草を株わけして、翌年の土用の丑の日に刈り取る。1枚あたりの労賃は夏ぶつ80銭で多いときで300枚(夏期)冬ぶつは1枚あたり70銭で200枚生産(1人当り)、12月末、女川、飯野川、牡鹿に出荷。



千齒コギ (稲コキ用…若狭ハヤセ名産の銘あり)



ドベ田用マンガ



フグイ (縄を一定の長さに測る用具)



フルウチ (豆脱穀用)

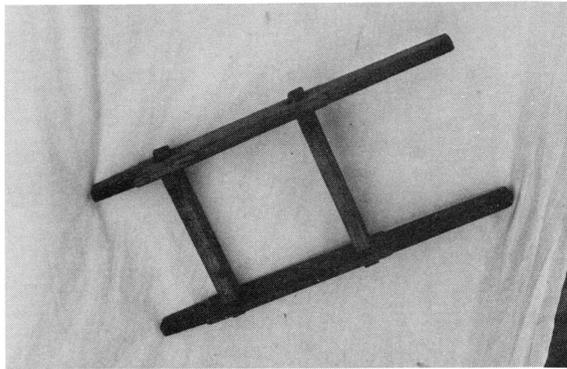
衣		話者	高橋 つよ <small>男</small> (明治32年7月10日生)												
仕 事 着	肌着(下着)	男	夏…ハダギ(メリヤスのうすいもの) 冬…ハダギ(メリヤス)						女	夏…チャンチャコ(白いさらし) 冬…同上					
	仕事別(季節別)	☆上 体		☆下 体		手		す ね		☆はきもの		かぶりもの			
		夏	冬	夏	冬	夏	冬	夏	冬	夏	冬	夏	冬		
	☆男	田	そで長シャツ	シャツの上にチョッキ(手製)	モモヒキ	ハンコモモヒキ(下はヨコキヤハン)	なし	コ	テ	ヨコキヤハン	ヨコキヤハン	なし	なし	スゲガサ	手ぬぐい
畑	同上	同上	同上	同上	なし	同上	なし	なし	なし	なし	ワラジ	同上	同上		
山	シャツ	シャツハンテン(木綿の縮もよう)	モモヒキ	厚いモモヒキ	コ	テ	なし	なし	なし	ゴムタビ	ゴムタビ	ボウシ	手ぬぐい		
☆女	田	シャツハンテン	シャツハンテン	ハンコモモヒキ	ハンコモモヒキ(水があるため)	コ	テ	コ	テ	ヨコキヤハン(深田のため)	ヨコキヤハン	なし	なし	スゲガサ	手ぬぐい ほっかぶり類に まきつける
畑	ハンテン	ハンテンの下にジャケット	同上	同上	なし	コ	テ	なし	なし	なし	ワラジ	スゲガサ	同上		
雨 具		ミノ、スゲガサ		(夏の暑い日に) ヒゴモ											
防 寒 具		なし													
染 織	☆麻・藤・楮など絹・木綿以外の繊維で布を織ったか						草木、その他を染料に使ったか								
	材 料							色	あい 色						
	名 称							材 料	あい 草						
	方 法							方 法	あい草を白でついて、まるめて天日にほす。 これを水にといて、灰水を入れてカメになら して水に通して、糸を染める。						
用 途															



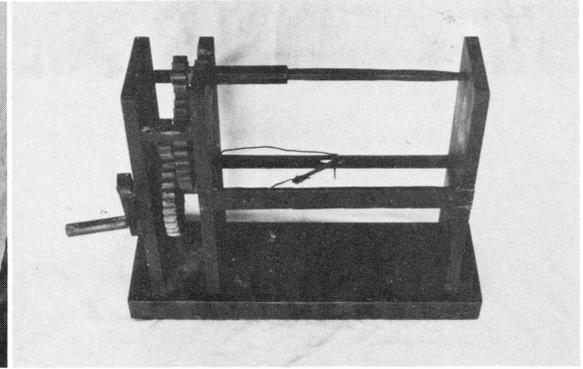
ハンテン (女子仕事着…冬用)



ハンテン (女子仕事着…夏用)



真綿カケ (炭酸水で煮たマユの糸をひっかける用具)



ザングリ (マユを煮てその端を針金の先にかけて、わくにハンドルを廻して絹糸をとった)

(二) 保存食

物は野菜が主である。

午前と同じく午後3時にタバコがでる。パンメシは午後六時から七時頃で副食

は毎日行商がくる)

と漬物と魚一匹 (魚は渡波のトリアゲから毎日行商がくる)

オヒルは12時頃、米とツブシ麦の御飯

でる。主にふかしイモとカボチャ。

副食物は漬物と納豆とお汁、たまにはタ

マゴヤトロロ。

アサメシは朝七時頃、米にツブシ麦、

(一) 毎日の食事

田植・稲刈の時には10時頃、タバコが

でる。主にふかしイモとカボチャ。

副食物は漬物と納豆とお汁、たまにはタ

マゴヤトロロ。

アサメシは朝七時頃、米にツブシ麦、

(一) 毎日の食事

田植・稲刈の時には10時頃、タバコが

でる。主にふかしイモとカボチャ。

副食物は漬物と納豆とお汁、たまにはタ

マゴヤトロロ。

アサメシは朝七時頃、米にツブシ麦、

(一) 毎日の食事

田植・稲刈の時には10時頃、タバコが

でる。主にふかしイモとカボチャ。

副食物は漬物と納豆とお汁、たまにはタ

マゴヤトロロ。

アサメシは朝七時頃、米にツブシ麦、

(一) 毎日の食事

田植・稲刈の時には10時頃、タバコが

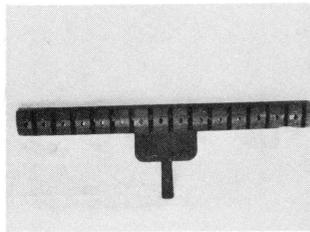
でる。主にふかしイモとカボチャ。

副食物は漬物と納豆とお汁、たまにはタ

マゴヤトロロ。

アサメシは朝七時頃、米にツブシ麦、

食



梭(塩用カマスをつくる時用いる)ヒゴモ(夏の暑さよけ、雨よけ)

塩漬け……大根、キウリ、ナス 主に秋つける。

みそ漬け……大根、キウリ、ニンジン  
ゴボウ、シソの葉、シソの実などをまぜてつけたもの。

乾燥

「シミダイコン」、冬に大根をしみらして、しばらく干し、春頃食べる。

「テンピボシ」、5月頃カレイを塩にまぶして乾燥させて食べる。

(三) 特別の日の食事。

餅をつく日

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

お正月(12月28日) ……サンリンボウの日は餅はつかない。

菊の節句(9月9日) ……休み日

川渡り餅(10月1日) ……6月1日と同じ。

だんご・おはぎをつくる日

お彼岸、お盆

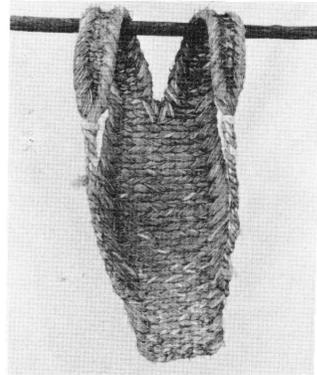
### 石巻市文化財だより

<b>住</b>		話者	三浦 いしよ <sup>男</sup> <sub>女</sub> (明治39年11月29日生)							
母屋	☆屋根型・つくり	屋根材	その他の特色		屋敷	屋敷内の付属建物の名称・用途		☆屋敷神の名称・行事		
	くずや (寄せ棟)	茅葺き	母屋は今から140年位前に建てた			風呂場 納屋	ウジガミサマ・ヤマノガミ ●ウジガミサマは旧の10月15日各家でお参りする。			
☆間取	部屋の名	ニワ	ダイドコロ	オカミ	オクザシキ	ナンド				
	用途	ワラジヤゾウリをつくる	炊事場	客用 子供用寝室	祖父母 父母用寝室	若夫婦寝室				
い	☆名称	☆主人	☆主婦	☆客	☆下座	種類	火棚	☆自在鉤	☆カナワ	
	座 名	ヨコザ	オナゴ ザシキ		キジリ	名称		カギ		
かまど	場所(常設 仮設)	名称	材質	用途	かまどの神		灯 火 具	アンドン…… ナタネ油で常時使用 ランプ…… 天井よりつるし石油を使用		
	常設 仮設	ニワ カマド	赤土	飯(めし)たき 湯わかし	カマノガミ (お正月に掃除する) 粘土・赤土製					
飲料水	入手法		井戸神	水神様	屋敷林	名称	樹種	方角		
	井戸					クギリ	シバ・杉	北・東・西		

<b>運輸・交易</b>		話者	松浦 登代作 <sup>男</sup> <sub>女</sub> (明治39年10月14日生)							
運搬具	☆名称	手	☆肩負い	☆背負い	畜力	舟	車	そり(木馬)		
	スドリ		天ピンと苗かご 天ピンとコヤシ 桶	タガラモッコ ヤセウマ エハイモッコ バンドウ	ニグラ タレバカマ	和船	ダイハチグ ルマ 馬車 (昭3~昭30年)	人力そり 馬そり (昭25~昭26年)		
	形状・材質	竹製	苗かごは竹製 天ピンは杉製	●エハイモッコは木製 ●タガラモッコは背負う所は木で枝を縄で鳥集状にくくってかご状にしたもの	●タレバカマは縄であんだものである					
用法	肥料をタレバカマに上げるために使用	苗を苗かごに入れて天ピンで田に運ぶ	●エハモッコは土・石運搬用 ●タガラモッコは肥料運搬用 ●ヤセウマは炭・薪運搬用	●タレバカマは堆肥や稲束を馬で運搬する用具 ●ニグラ米、材木を運搬	木炭や材木を運搬するのに使用	材木・米・炭などの運搬				
運輸業者		名称	時期		用具					
交 易	☆市	名称	マツ日、馬市			野菜(はくさい、じゃがいも) 薪 注文に応じて炭			物々交換	米・薪・炭を蛇田でなしと交換
		時期	●マツ日は旧の12月18、19日から28日ごろ ●馬市は冬期			毎日				
		所在地	●女川、渡波 ●飯野川			渡波・女川方面から魚まれば雄勝方面から海産物と石巻からはタンモノなど			道具・牛馬の貸借	稲の収穫時に無料で馬を身内近所同志の間で貸借した。
		商品名	●真野畳を出荷した。			毎日(3~4人)				
		商				かごやふくろに入れて背負い綱でかついできた				



天ピンと苗カゴ (田植えの時苗をはこぶ肩負具)



バンドウ (薪、炭俵背負具)



講関係文書 (その2)



講関係文書 (その1)



書類箱

		話者	松浦登代作	男 女	(明治40年10月14日生)
社 会 生 活	村契約講の名称・組織・機能		子供組 娘組 嫁組 若者組 主婦組 隠居組	子供仲間だけで主に担当する諸行事の名称とその大要 (タナバタ小屋・盆舟ナガシ・刈り上げ小屋・松ヤキ・獅子フリなど)	
	1. 名称 日向・日影契約講 2. 役職とえらび方 3. 加入・脱退の年齢・条件 男の家督で数え年15歳で加入42歳で脱退 4. 集会行事 総会・会合年2回 (春2月と秋10月) 5. 規約の有無・その大要と保管者 6. 共有財産 共有林 7. 互助慣行など ●葬式の援助 (各家から米を集める) ●屋根の葺かえ・棟上げの時 ●備荒 (もみをだし合って区作に備える)			●カシンドキ (旧正月14日) …一種のまよけで直径3cm、長さ30cmの皮をむいた木をもって各家を回り歩き「カシンドキ、米ケラセ、米ナケリヤ、餅ケラセ」といって皆で歩く	
	若者組 (新しい青年会以前の若者契約・青壮年仲間を主にして現在まで)			新しい女子青年団以前の娘 (未婚女性) だけの仲間あるいは集会行事 (講など) や担当行事の有無	
				なし	
				嫁を主とする講とその行事 (山の神講・十九夜講・地藏講など)	
				観音講…嫁に来てから42才まで、山の神を信仰、年2回 (春、秋) 掛軸をかけ宿をとりおがみ会合する。	
1. 名称 青年会 (明治30年か40年頃青年会となる) 2. 加入と脱退 3. 役職と年齢的序列 4. 集会行事と担当する村仕事 (祭事、芸能なども) 5. 共有財産の有無 6. 規約の有無・保管書類・保管者など 7. 集会所の有無……有 テイマイ (宿) …総会ごとにかわる		主婦組		主婦 (姑) を主とする仲間の講とその行事 (観音講・念仏講など) ・新しい婦人会は別にします	
		隠居組		主として隠居した老人 (男女とも) 仲間の講とその行事の有無	
				念仏講…おばあさん達を中心 ●フダシヨメグリ…牡鹿33か所フダシヨメグリ	

人の一生

(一) 産 育

産の場所

一回目は実家のナカノ間で、三回目から自分の家のウラザでした。とりあげ婆さんにお産させてもらう。

産の神

イナバライ

妊娠してからリオウ崎の神職の所へ行っておはらいをしてもらう。そのとき頂いた札を枕もとに貼っておく。

山の神

親音講の時、宿に嫁さんたちが集って山の神の掛軸をかけ、神酒や食物をあげ安産するようにと拝む。そして皆で部落にある山の神の石碑を拝む。

後産のしまつ

紙につつんでトラバシで包み縄で結びおのおの屋敷墓地に埋めた。夫が持っていく。五〇年前共同墓地ができてからは1m四方のイナズカに埋めるようになった。埋めるのはイナズカを作った人の役目になっている。

生児のまじない

初外出

実家に行く時、釜のススを額につけて行った。

産の忌・別火

火水(ひみず)が悪いと称して、三日間つつしむ。よその人には、お茶は一切ださない。炭焼きの人が産火を喰ったために釜がうまくいかなかった。

山の木だしをする人などは特にきらった。死よりもきらう。

名つけ

名づけ親は特になが病弱の子供は寺にすてて、お尚さんに名づけてもらった。それ以来、お尚さんの家と親戚づきあいをしていく。

初誕生

はじめの家ではお七夜振舞をする。親類・兄弟・実家のおふくろ・叔父・おば・姉などと呼んで子供にハプタイで作った着物一揃いを着せ、抱いて廻す。

(二) 養 育

七五三はしない。エジコに入れて育てる。朝にエジコに入れて、昼にオシメをとり換え、夜まで入れて置く。夜食後、畳作りが終るまで。

(三) 成 年 式

女は13才、男は15才「年かさね」をして振舞う。長男は契約講に入り、初入りの時は、酒一升を持って行き、講員の前で「掛軸」をおがみ規約厳守を誓約する。飯を大盛にして食わせられる。

(四) 一人前の規準

男：一反分の田を起す。脱穀は千齒こきで一日40束から50束。米俵一俵をかつぐ。女の場合は特にない。

(五) 婚 姻

名称……ヨメトリフルマイ  
婚舎・方法……親類の若い人たちが議

をうたつてトコに入る。婚舎は裏ザ。

ソエムコ・ソエヨメ

ソエムコをムコゾエと称しムコ入りのみ。ソエヨメをヨメゾエと称し、タンスの鍵を持つてくる。服装は式服。

出立ち・入家の儀礼

ヨメムカイはむこ・仲人夫妻・親戚・兄弟で数は5・7・9の奇数の人数である。

家を出る時は玄関から、嫁と仲人(婦人)が馬に乗り、馬にそれぞれつづらをつけ、鈴をつけ立つ。  
ムコの家から五百米の場所でナガモチの受け取り渡しがある。

馬を下ると、ちようちんでむこの家の親類の人が門口で迎いに出る。嫁が玄関に入る時、親戚の人がかさをかぶせて入れる。ロブチで挨拶をし奥ザシキで挨拶をする。

厄年の年令と儀礼

男……15才 25才 42才  
女……13才 19才 33才  
厄おとしと称して親類・親戚を集めて神主に厄おとしをしてもらい、後、御馳走をする。

長寿の祝

88才、手形のはんを親類にくぼる。長寿祝する家は生活状態による。

(六) 葬 送

シラセ……親類が2人一組、3〜4組で、女川・渡波・沢田方面にシラセに行つた。

穴ほり……契約講から2人一組、順番

に行く。妻が妊娠しているときは次の順番の人が行う。

行列順序

- (1) タイ松：先頭に立つ。親類の総本家の一人。
- (2) タツガシラ：四人、近所の顔役。
- (3) ちようちんもち：2〜3mの竹をかつぐ。人数は四人。
- (4) 四花：親戚の人が花を持つ。人数は一人。
- (5) ろうそく：人数は一人。
- (6) 香 炉：甥や近いいとこ。人数は一人。
- (7) 火 繩：1m位の竹を四つに分割して先端に火繩を結びつける。
- (8) 造 花：親戚一同。
- (9) 撤 錢：死者の親類・兄弟の中から一人が錢を紙に包み、お菓子と共に寺の祭場でまく。
- (10) 生 花：造花より仏に近い人。人数はシラセの人数。

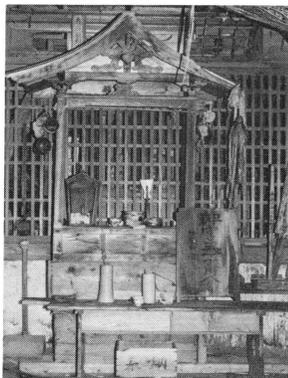
中陰明け

49日の儀礼、餅を供える。百か日供養もする。

(七) 個人追福供養

一・三・七・一三・一七・二三・五〇年期。五〇年期には、位牌はお寺に納める。

業師堂



十二面観音堂

正月お札の版木



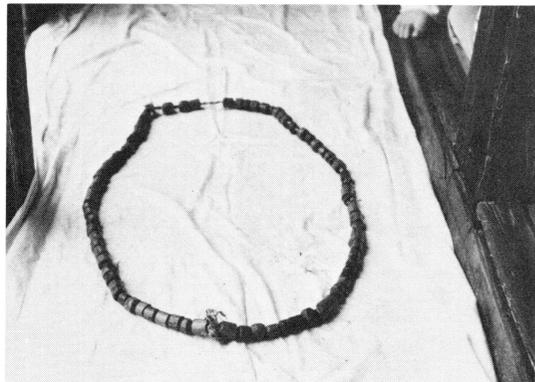
正月獅子舞の頭

昭和56年度真野日向・日影民具収集表

項目	品名	計
農具	マンガァ (どべ田用)	4
	フルウチ (豆の脱穀用)	
	千歯コギ (若狭ハヤセ名産の銘あり)	
	フグイ (縄を一定の長さにはかる具)	
衣 (織業衣機)	ヒゴモ (雨よけ、陽よけ用)	3
	ハンテン (夏物)	
	ハンテン (冬物)	
運搬具	バンドウ (大)	4
	バンドウ (小)	
	キボネニグラ	
	馬のシリガエ	
総計		11



百万遍で使用する数珠 (その1)



百万遍で使用する数珠 (その2)

# 五松山洞窟遺跡発掘調査の概要

日本考古学協会会員 三宅宗議

## 一、遺跡の位置と環境

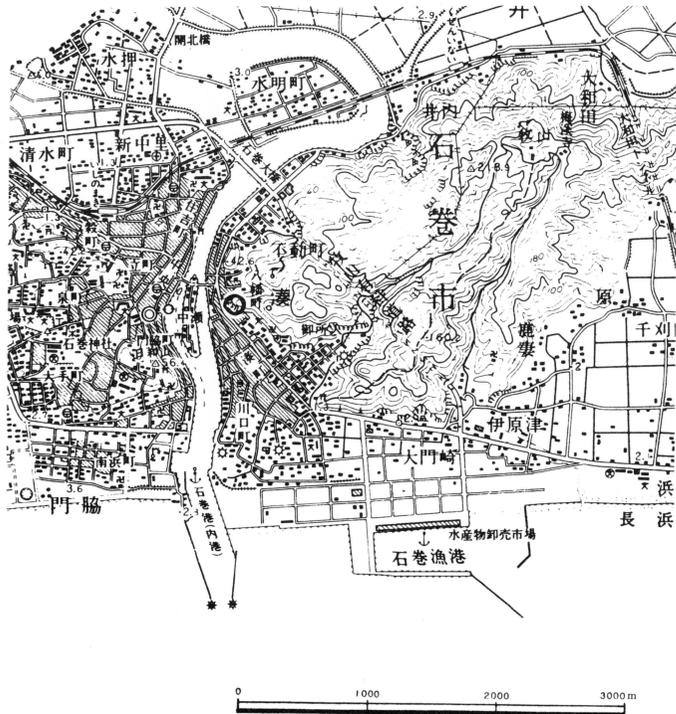
五松山洞窟遺跡は石巻市湊字町裏山一  
の二七に所在する。遺跡は、旧北上川河  
口の東岸を占める牧山丘陵の西端に位置  
している。市役所の東方約七〇〇メー  
ルの地点である。

には鐘乳石を伴う自然洞穴が幾つか散在  
している。一部の洞穴からは以前、人骨  
や金銅製耳環が発見された。五松山洞窟  
遺跡もそうした洞穴遺跡の一つであろ  
うと考えられる。

## 二、調査組織と経過

遺跡の立地する五松山の山塊は中世代  
ジュラ紀の伊里前層を地盤としている。こ  
の層は石灰を含む砂質粘板岩層で、山腹

五松山洞窟遺跡は一九八二(昭和五七)  
年一〇月二二日防壁工事中に見えられた。



五松山洞窟遺跡位置図(○印)

(建設省国土地理院発行五万分の一)  
地形図「石巻」を縮小して使用

工事関係者から通報を受けた市教委は、  
直ちに現場保存を行い、県教育庁文化財  
保護課の指導を得て発掘調査体制を組み  
次の要項で発掘を実施した。

第一次調査 一〇月二六日から一一月  
七日まで

第二次調査 一一月二二日から一二月  
二九日まで

調査対象 洞穴遺跡一基

調査主体者 石巻市教育委員会  
(教育長 木村徳一郎)

調査担当者 石巻市文化財保護委員  
木村敏郎

日本考古学協会会員

調査事務局 石巻市教育委員会社会教  
育課文化係 佐瀬哲夫

調査員 石巻市文化財保護委員  
和田純大

佐藤雄一

佐々木 豊

石垣 宏

石島恒夫

鈴木東行

石巻市役所茨浜支所  
中村光一

調査補助員 茂木好光、庄子敦、菅原  
修、浜本哲栄、溝口博康、  
近江俊秀

なお、発掘調査に当たっては、次の方  
々の指導を頂いた。石巻女子高等学校教  
頭後藤勝彦、東北歴史資料館考古研究科  
長藤沼邦彦、奈良県立橿原考古学研究所  
研究部長石野博信。

また、調査に協力された方々は、次の  
通りである。宮城県石巻農林事務所、株  
式会社丸本組、株式会社奥津組、平塚幸  
治、佐藤了、八幡隆吾。

以上記して、各位に謝意を表する。

発掘調査は洞穴内約五平方メートルと  
洞穴外の平地約二〇平方メートルの計二  
五平方メートル程を対象とした。洞穴入  
口付近に基準杭を打ち、洞穴内にはA・  
B二区の発掘区を設け、洞穴外平地には  
C・D二区の発掘区を設けた。

遺構遺物の検出にあたって、洞穴内  
は主要遺構面を発掘を止め、洞穴外では  
基盤の砂層上面までの調査を原則とした。  
また洞穴内の堆積物は礫を除いて全て採  
集し、洞穴外の堆積物は土を含めて一定  
量を採取した。

発掘調査完了後、洞穴に砂を詰め覆土  
して、後日の整備、公開を待つこととし  
た。

なお発掘期間中、調査の状況を二度に  
わたってプリントで発表し、また報道機  
関を通じてその都度成果を公開した。異  
例のことであるが、危険な発掘現場への  
一般の立入りを制限したための措置であ  
る。

## 三、発見遺構

この遺跡で検出された遺構は、石組み  
遺構、皿状ピット、掘り込み遺構、敷き  
石遺構、貝塚および遺物包含層である。  
これらの遺構は砂質の沖積層を基盤と  
している。基盤面の高さは標高二・七メ  
ートルである。

遺構は洞穴内遺構と洞穴外遺構とに大別される。洞穴外遺構も元来は洞穴または岩陰の中にあつたと思われるが、ここでは発掘時の状況に従って区別しておく。

#### (ア) 洞穴内遺構

洞穴そのものの大きさは奥行き二・七メートル、幅一・八メートル前後、高さ一・二メートル前後である。洞穴は西に面し、奥の方が低く狭まる不定形の自然洞穴である。壁面全面に石灰が付着し、一部に石灰の厚い凝結が見られた。

洞穴内の遺構は石組み遺構、皿状ピットおよび遺物包含層である。

石組み遺構は、平滑な上面をもつ三〇センチ×六〇センチ大の角礫を中央に据え、周囲に径三〇センチ大の角礫を立てたものである。石礫状を呈する遺構であるが遺物を伴わない。しかしその周囲にはこの石組みに連続して、大小の角礫による類似の遺構が六基以上あり、それぞれ人骨と遺物を出土している。

出土遺物は土器、金銅製品、鉄製品、玉石製品、骨角製品、貝製品等で、炭化木片、漆膜、鳥獣魚骨片、貝等も出土している。人骨は八体以上検出された。いずれも遺存状態が良いが、横臥伸展の状態を示す一体と骨を組み合せた二体を除いて、遺体の形状は明らかでない。

これらの石組み遺構は黒色土層の上に形成されている。黒色土層は砂層上に堆積した遺物包含層で、二〇センチ程の層厚を有し、貝、鳥獣魚骨片、土器、鉄器片を含んでいる。

この堆積土層は入口付近で皿状ピット

によって削られている。皿状ピットは二基が重複している。それぞれ炭化物と焼石を含む灰層を有する。皿状ピットを覆う小礫混じりの薄い土層には土器片が見られた。

#### (イ) 洞穴外遺構

洞穴外の遺構には、石組み遺構、掘り込み遺構、敷き石遺構、貝塚および遺物包含層がある。

石組み遺構は洞穴の外壁に接して断面「V」字状の空間をもつもので、遺構内から土器と貝が出土した。

掘り込み遺構は、洞穴前の平場を形成するもので、範囲は不明だが長さ一・五メートルにわたって高さ二〇センチ程の壁が立つ。この遺構は前掲の皿状ピット二基と黒色の遺物包含層を基盤面まで削られている。遺構には部分的に二枚の灰層が見られるが既に攪乱を受けており詳細は不明である。遺構内から土器片、金銅製品、鉄器片が出土しているが、原位置を示すかどうかは不明である。

敷き石遺構は掘り込み遺構の南側にある。砂層上に、径四〇センチ×二〇センチ前後の角礫が多数配置されているもので、面積は三平方メートルを超える。角礫は多くが平らな面を上にし、全体としても一つの平面を構成している。遺構の性格は不明だが礫間に土器片が見られた。貝塚はこの遺構の西に接し西南方向に広がっている。砂層を基盤として最大三〇センチの層厚を示す。層序は大別して表土、混土貝層、混貝土層の順で、混土貝層と混貝土層は共に一五センチ程の層

厚を有し、土器、骨片等を含んでいる。

#### 四、発見遺物

五松山洞窟遺跡からは多数の遺物が発見されている。遺物は人工遺物が洞穴内遺構に多く、自然遺物が洞穴外に多い。

#### (ア) 洞穴内遺構出土遺物

弥生土器(後期)、★須恵器(古墳時代後期)

耳環、★主頭太刀把頭、鐔、★鞆、責金具、足間、飾板等

直刀、刀子、鋏、衝角付靑、頸甲または短甲残欠、小札鉄製品、環状鉄製品、釣針等

骨角製品  
鹿角製刀子把、弓筈形角製品、鹿角製装身具、骨製装身具、環状骨製品、板状骨製品、刺突具状骨製品、針状骨製品等

貝製品  
貝輪、包丁形貝製品

玉石製品  
琥珀製丸玉

その他  
漆膜、炭化木片、焼石、鳥獣魚骨、貝等

(イ) 洞穴外遺構出土遺物  
弥生土器(中期・後期頃)

土器  
耳環

金銅製品  
刀子、鋏

鉄製品  
刺突具状骨製品

骨角製品  
磨製石斧

玉石製品  
炭化物、焼石、鳥獣魚骨、その他  
貝等

(★印は発掘前のもの)

#### 五、遺構の性格と時期

##### (ア) 洞穴内遺構

石組み遺構は人骨を擁し鉄製品、焼骨等も伴出している。人骨の出土状況はなお検討を要するが、埋葬状態を示すものと考えられる。遺構は埋葬遺構であろう。遺体の埋葬法については、一体が伸展葬を推測させる。他の人骨は骨格の遺存状況から推して再葬骨である疑いが濃い。伴出遺物は副葬品であると思われる。

この遺構と埋葬人骨の年代は弥生時代後期初頭(三世紀)および古墳時代後期(六〜七世紀)に相当すると思われる。ただ、その大部分は古墳時代の遺物を伴っているため、古墳時代後期の再葬墓を主とする遺構であるだろう。

また、この埋葬遺構の基盤をなす遺物包含層と、この層を切つてつくられた二基の皿状ピットは、共に弥生時代後期の所産である。皿状ピットは炉跡であると考えられる。

##### (イ) 洞穴外遺構

洞穴の外壁に接する石組み遺構は、出土土器によって弥生時代後期頃の遺構と考えられるが、土器はなお検討を要する。掘り込み遺構は前掲の二つの炉跡を切っており、それよりも時期は新しい。この遺構からは弥生土器と古墳時代の遺物が出土しているが、層位的に不明なため遺構の時期がいずれにあたるのか判断としない。したがってその性格も確定しがたいのである。

敷き石遺構もその性格はつかみ難い。出土土器から見て弥生時代中期頃と考え

られる。貝塚の形成時期も弥生時代中期から後期である。

以上の検討を踏まえて、五松山洞窟遺跡の性格と時期を言うならば、現在の段階では少なくとも次のように要約することができる。

五松山洞窟遺跡は、弥生時代中期から後期の居住に関する遺構と、古墳時代後期中心の埋葬遺構を有する遺跡である。

六、五松山洞窟遺跡の意義

この遺跡の遺構、遺物のもたらす学術上の意義は極めて大きい。それは石巻地方という狭い地域を超えたものである。

そのことについての考察は後の正式報告書に譲ることとし、ここでは重要な事実を二、三掲げておきたい。

(1) 弥生時代関係

ア 洞穴遺跡の発掘調査例としては列島の北限にあたる。

イ 鉄器を伴う洞穴の発掘例として

ウ おそらく、列島の北限である。弥生後期土器に鉄器が伴うことが宮城県では初めて明らかになった。

(2) 古墳時代関係

ア 再葬例を示す洞穴遺跡は東北地方で初めてであり、列島の北限にあたる。

イ 洞穴遺跡から金銅荘太刀が発見されたことは全国的にも極めて珍しい。

ウ 衝角付冑や頸甲等の出土は東北地方では極めて珍しく、列島の北限を示す。

エ 骨角製品の優品が多数出土した遺跡は全国でもこの遺跡が初めてである。遺物の中には初めて発見されたものもある。

オ 極めて保存のよい人骨が多数出土した例は、東北地方としては初めてである。



洞穴内の石組み遺構  
中央の平らな角礫が中心。天井は石灰で白くなっている。

七、まとめ

五松山洞窟遺跡は石巻市の五松山に形成された自然洞穴を利用したものである。

この洞窟は弥生時代中・後期には住居に利用され、古墳時代後期には墓として使用された。この遺跡で検出された遺構・遺物等は学術上極めて価値高いものである。従って、この遺跡に関する研究は慎重に更に精密に進められねばならないだろう。また、遺跡・遺物等の保存保護や公開についても万全を期したいと考える。

付 五松山洞窟遺跡出土遺物の整理

五松山洞窟遺跡から出土した遺物のうち、人工遺物について発掘調査終了後、次の要領で整理を実施した。

期間 一九八三年(昭和五八)二月五日より同年三月三十一日まで

担当者 木村敏郎 三宅宗義

補助員 茂木好光 庄子敦 浜本哲栄 菅原 修 溝口博康

方法 高橋良典

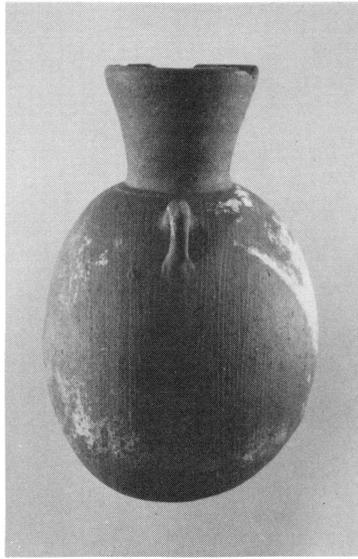
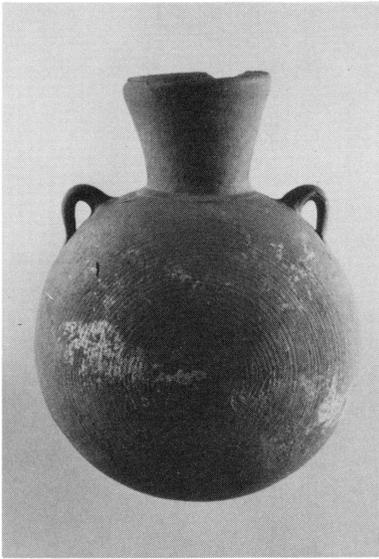
(ア)水洗い (イ)分類・同定 (ウ) 記名 (エ)記録 (オ)集計 (カ)写真撮影 (キ)実測(一部)

整理の結果、人工遺物の種別・点数・内訳は別表の通りであるが、一部さらに検討を要するものがある。これらの遺物は遺存状態が極めて良好であり、質量共に優れている。これらの保存処置や分析および自然遺物、人骨等の整理は昭和五八年度以降に実施する予定である。

種別	点数	内訳
土器	三一七	須恵器(提瓶)一、弥生土器片三一三、不明土器片三
玉石製品	七	磨製石斧一、琥珀製丸玉片六
骨角製品	三〇	弓筈形角製品二、角製刀子把四、環状角製品四、板状骨製品六、骨針二、骨製刺突具類一〇、骨製装身具二
貝製品	三	貝輪一、環状貝製品一、包丁形貝製品一
金銅製品	一〇	太刀把頭(圭頭)一、鏢(倒卵形六窓)一、責金具一 把飾板一、足間飾板一、鞘二、耳環二、(外に直刀付着の飾板二 責金具二)
鉄製品	三八五	鏃、刀子、直刀、環状鉄製品、小札状鉄製品、衝角付 冑残欠、頸甲または短甲様鉄製品残欠・鈞針
漆皮膜	八	
削痕ある骨片	一九	
木製品	若干	炭化物物一一八点の一部

五松山洞窟遺跡  
出土遺物 1

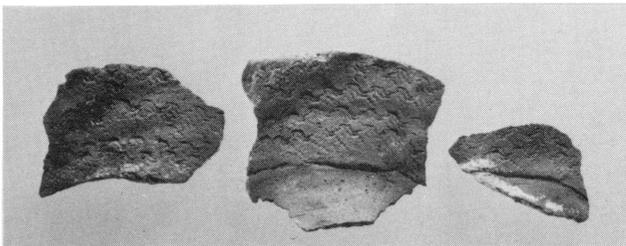
縮尺不同



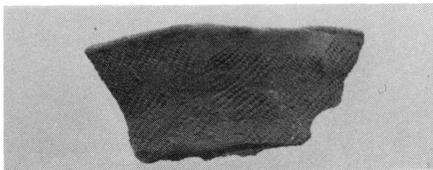
▲須恵器（古墳時代後期） 洞穴内

▼時期不明土器 洞穴外V字状石組み

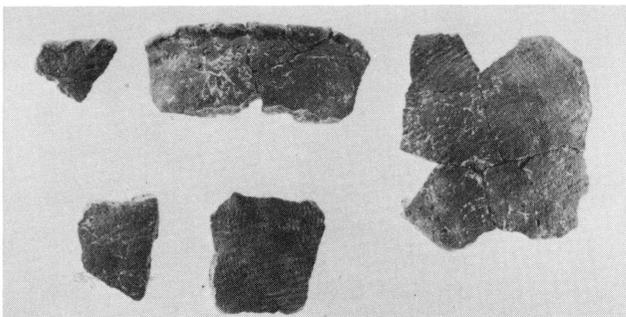
▼弥生土器（後期） 洞穴内石組み下



▼弥生土器 洞穴内石組み下

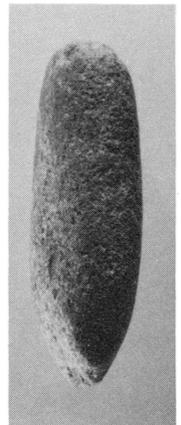
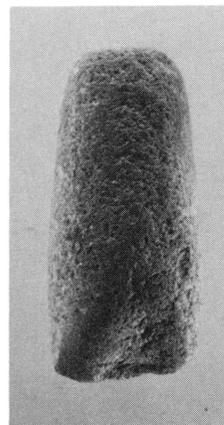


▼弥生土器 洞穴内石組み下



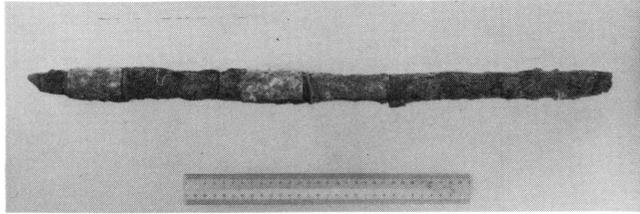
▼磨製石斧

洞穴外具塚

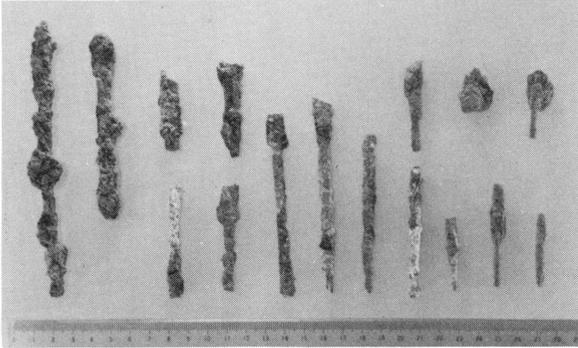


五松山洞窟遺跡  
出土遺物 2

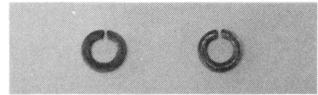
縮尺不同



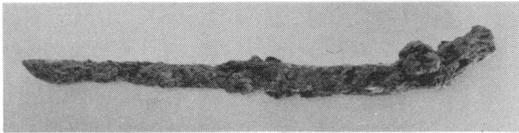
▲直 刀 洞穴内



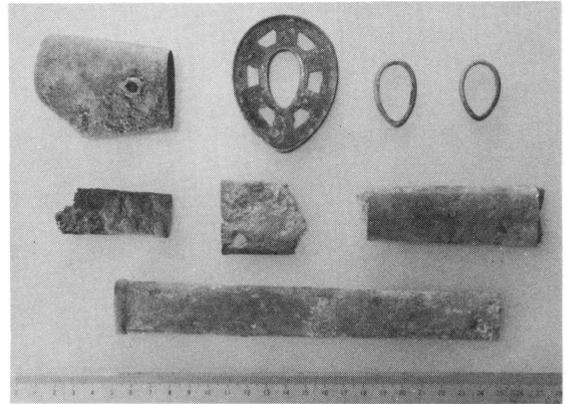
◀鉄 鏃 洞穴内



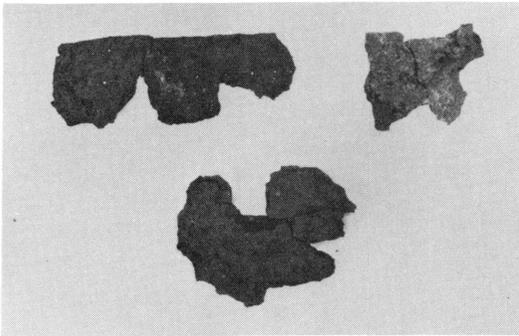
▲金銅製耳環 洞穴内



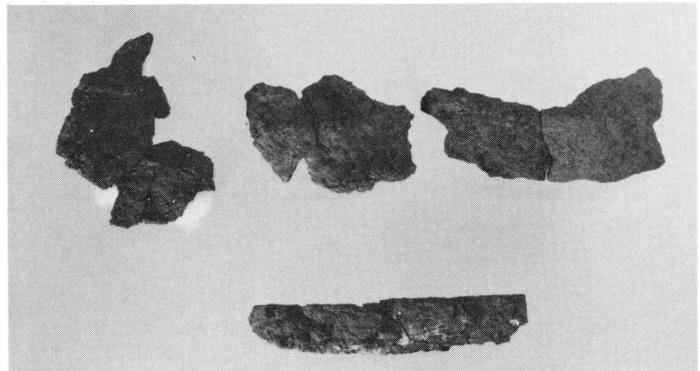
▲刀 子 洞穴内



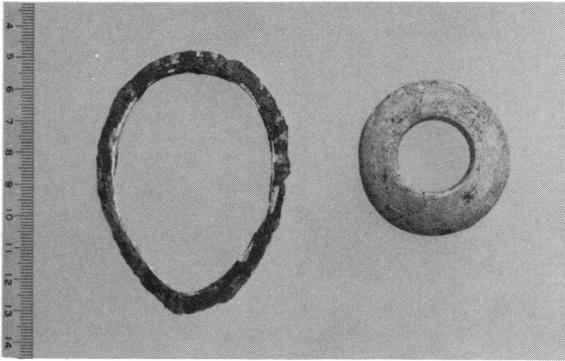
▲金銅荘太刀装具（把頭他） 洞穴内



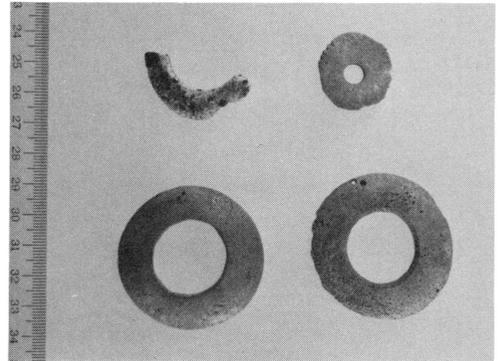
▲鉄 製 品 洞穴内



洞穴内  
鉄 製 品 ▶



▲貝輪と環状貝製品 洞穴内



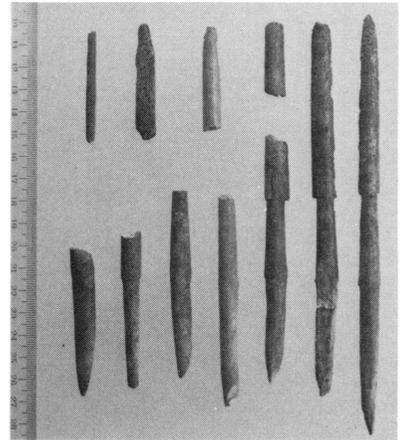
▲環状骨製品 洞穴内

五松山洞窟遺跡  
出土遺物 3

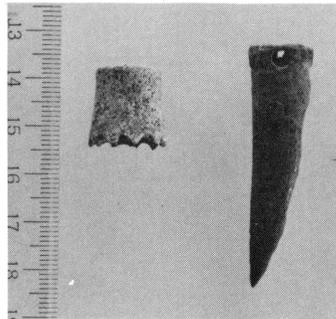
縮尺不同



◀板状骨製品 洞穴内

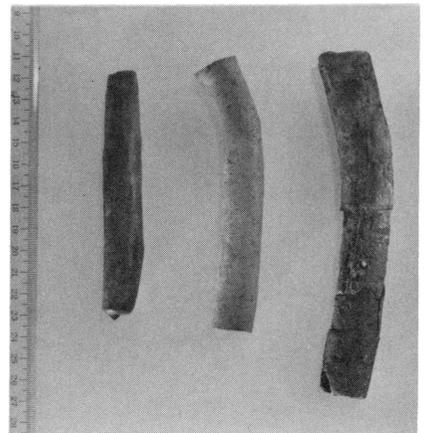


▲刺突具状骨製品 洞穴内



▲骨製装身具 洞穴内

◀弓筈形角製品  
と板状骨製品  
洞穴内



▶角製刀子把  
洞穴内



五松山洞窟遺跡平面実測図  
(発掘終了段階)

石巻市文化財だより(第12号)

昭和58年3月31日印刷

昭和58年3月31日発行

発行 石巻市教育委員会  
石巻市日和が丘一丁目1番1号

印刷 株式会社 松 弘 堂  
石巻市門脇字本草園2-16  
☎ (0225) 5555代